

UT

Synth Series

オーナーズマニュアル

- UR-5J シングルレシーバー
- UR-5DJ デュアルレシーバー
- UT-5J ベルトパックトランスミッター
- UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター
- DA-5J アンテナディストリビューションアンプ
- AN-81 アクティブパワーアンテナ

はじめに

このたびは、MAXON UHF シンセサイズドワイヤレスシステムをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ワイヤレスシステムはトランスミッター（送信機）とレシーバー（受信機）のコンポーネントから構成されております。
このマニュアルはMAXON UHF シンセサイズドワイヤレスシステムすべてのシリーズについて書かれています。
商品の優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用していただくために、このオーナーズマニュアルをよくお読みくださるようお願いいたします。

※本取扱説明書記載の以下の製品は生産中止または名称変更となっております。

<生産中止>

対象機種	後継機種
ELECTRO VOICE 社製 N/D757	なし
AKG 社製 C409	AKG 社製 C419
AKG 社製 C410	AKG 社製 C420
AN-81	ANW8

<名称変更>

対象機種	現行機種
AW-10	W10
AW-30	W30

CONTENTS

1. 主な特長	4~5
2. 使用上のご注意	6
3. 保証書／アフターサービスについて	7
4. 各部の名称と働き	
A. UR-5J／UR-5DJ レシーバー／フロントパネル	8~9
B. UR-5J／UR-5DJ レシーバー／リアパネル	10~11
C. UT-5J ベルトパックトランスミッター	12~13
D. UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター	14~15
E. DA-5J アンテナディストリビューションアンプ	16~17
F. AN-81 アクティブパワードアンテナ（かべ取付け用）	18~21
5. セットアップ	
例1. シングルシステム	22
例2. デュアルシステム	23
例3. 4チャンネルシステム	24
例4. 6チャンネルシステム	25
6. テクニカルガイド	26~29
7. トラブルシューティング	30
8. 寸法図	31~33
9. 主な規格	34~35
10. プロダクトラインナップ	35

1. 主な特長

- ◆本場アメリカでの長い経験とたゆまぬ技術革新から生まれた MAXON UHF シンセサイズドワイヤレスシステムは、プロの現場に耐える厳選されたパーツを採用し、長期に渡って安定したオペレーションをお約束する信頼性の高い製品です。
- ◆ワイヤレスマイク専用割り当てられた 800MHz 帯を使用し、トランスミッター、レシーバー共に RCR 標準規格 B 型に準拠した 30 チャンネルから任意のチャンネルを選択できるシンセサイズド方式を採用しました。
- ◆30 チャンネルの中から同一グループの最大 6 チャンネルを同時に同一場所で使用できます。
- ◆トランスミッターは電波法に基づく特定小電力無線局で、資格や免許申請が一切不要です。
- ◆トランスミッターの空中線電力は特定小電力無線局で許可されている最大の 10mW 出力です。レシーバーは 2 つの受信部が完全に独立したトゥルーダイバーシティ方式の採用により、デッドポイントを大幅に改善し、見通し距離で半径 50 メーターから 100 メーターの安定したオペレーティングレンジを実現しました。
- ◆トランスミッター、レシーバー共に業務用 dbx ノイズリダクション TYPE II をコンパウンダーに採用し、103dB 以上のダイナミックレンジを実現しました。R.M.S. (実効値) 検出方式により、原音を忠実に伝送します。
- ◆トランスミッターには MAXON が独自に開発した低消費電力のワイヤレスシステム専用 dbx カスタム IC を採用し、また瞬時の大入力にも余裕を持たせる 9V アルカリ乾電池を採用し、4 時間以上の安定した連続動作を可能にしています。
- ◆トーンスケルチ信号には 38.4KHz を採用し、高音域における折り返し雑音と他社ワイヤレスシステムとの混信を低減しました。PLL 回路には新開発の 1 チップ PLL IC と QS フィードバック方式を採用し、低音域特性を改善しました。40Hz から 15,000Hz のフラットな総合周波数特性を実現しました。
- ◆トランスミッターには 110KF3E に最適なカスタムワイドバンド FM VCO を採用し、余裕を持ったリニアな変調による低歪化や機械的振動による雑音の低減化を実現しました。
- ◆トランスミッターの出力段にアイソレーターを装備し、10mW の高出力にもかかわらずトランスミッターを振った時などに発生するスタンディングの変化による雑音を大幅に低減しました。
- ◆レシーバーにはダブルバランスドミキサー (DBM)、ダイエレクトリック (誘電体) フィルターや多重シールドを採用し、ワイヤレスシステムの混信特性を大幅に改善しました。

- ◆レシーバーにはトーンスケルチ、シグナルスケルチに加えノイズスケルチを採用し、マルチパスなどにより発生する雑音を大幅に低減しました。
- ◆レシーバーのディスプレイセクションにはダイバーシティー A/B、RF レベルメーター、AF レベルメーター、オーディオ出力のミュート、使用可能なチャンネルの表示などを装備し、最適な状態を常に確認できます。
- ◆レシーバーにはチルト構造のダイポールアンテナが付属しています。移動運用の場合は付属アンテナで簡単にオペレートできます。常設の場合は専用外部アンテナで安定した運用ができます。アンテナコネクターには外部アンテナ用のファンタム電源を供給しています。
- ◆レシーバーはバランスド、アンバランスドの 2 つの出力を装備し、用途にあわせて周辺機器を接続できます。
- ◆レシーバー及び DA-5J アンテナディストリビューションアンプにはワイヤレスシステムでは初めてスイッチング電源を採用し、定格電圧の-15% から+20% の変動にも安定な動作ができます。
- ◆UR-5DJ は 2 台のレシーバー、UR-5J は 1 台のレシーバーを内蔵し、EIA 規格 19 インチ 1U サイズの省スペース設計です。
- ◆UR-5DJ レシーバーはアンテナ分配器を内蔵しています。また、オーディオ信号をミックスして出力するミックススイッチを装備しています。
- ◆UT-5J ベルトパックトランスミッターは、重さわずか 110g、厚さ 22mm と小型軽量です。
- ◆ベルトパックトランスミッターのマイクロホンはプロ市場で実績のある SENNHEISER 社製 MKE-2、SANKEN 社製 COS-11、AKG 社製 C409、C410 またはインストルメント用ケーブルが接続できます。
- ◆UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッターはアンテナ内蔵型のスリムなデザインです。
- ◆ハンドヘルドマイクトランスミッターのカートリッジはプロ市場で実績のある SHURE 社製 SM58 または ELECTRO VOICE 社製 N/D757 の中から選択できます。
- ◆トランスミッターにはスタンバイのためにオーディオスイッチを装備しています。
- ◆DA-5J アンテナディストリビューションアンプは MAXON UHF シンセサイズドワイヤレスシステムを複数同時に使うときに 2 本のアンテナで 4 台のレシーバーに RF 信号を分配できます。分配ロスを補正する RF アンプ内蔵式です。
- ◆AN-81 アクティブパワードアンテナはアッテネータスイッチ付き、アンテナエレメント、ブースターアンプ内蔵型ダイポールアンテナです。

「dbx」は米国 dbx Technology Licensing の登録商標です。
「SHURE」は米国 SHURE BROTHERS Inc. の登録商標です。
「ELECTRO VOICE/エレクトロボイス」は米国 ELECTRO VOICE Inc. の登録商標です。
「AKG」はオーストリア・AKG acoustics Ltd. の登録商標です。
「SENNHEISER/ゼンハイザー」はドイツ・SENNHEISER Inc. の登録商標です。
「SANKEN/サンケン」は三研マイクロホン株式会社の商標です。
「DURACELL/デュラセル」は米国 DURACELL Inc. の登録商標です。
「FUJIKURA/藤倉」は藤倉電線株式会社の商標です。
「HIROSE/ヒロセ」はヒロセ電機株式会社の商標です。
「RCR」は財団法人電波システム開発センターの略称です。
「MKK」は財団法人無線設備検査検定協会の略称です。

2. 使用上のご注意

A. 電波法について

- ◆UT-5J、UH-5J トランスミッターはあらかじめ電波法に基づく技術基準適合証明を取得して工場出荷しています。トランスミッターやアンテナの改造および法に基づく表示を改変、消除してはいけません。
- ◆UT-5J、UH-5J トランスミッターは海外で使用しますと各国の電波法に違反する場合があります。USE ONLY IN JAPAN.

B. 電源について

- ◆UR-5J、UR-5DJ レシーバー、DA-5J アンテナディストリビューションアンプの電源は商用電源 AC100V をご使用ください。大電力機器やデジタル機器等は電源を通して雑音を与える場合がありますので、別の回路のコンセントを使用してください。
- ◆レシーバーの電源コードの上に、重いものをのせたり、踏んだり、キズをつけたらすると、断線やショートのおそれがあります。
- ◆レシーバーからハムが出る場合はレシーバーを接地してご使用ください。
- ◆UT-5J、UH-5J トランスミッターの電源は必ず 9V アルカリ乾電池（東芝製 9V 6LF22AG）をご使用ください。指定以外のバッテリーをご使用になりますと定格通りのバッテリー寿命は保証されません。またバッテリーの形状によっては接触不良など支障をきたす場合もありますのでご注意ください。
- ◆トランスミッターのバッテリーを長持ちさせるために、使用しない時は電源スイッチを OFF してください。また長期間ご使用にならない時はバッテリーを抜き取ってください。

C. 設置上のご注意

- ◆雑音電波を発生する照明用調光器、大型モーター、コンピューターなどの OA 機器の近く、デジタル回路を使用したオーディオ機器／電子楽器や、トランシーバーなど他の通信機器から影響を受けない位置まで離して設置してください。
- ◆振動の多い場所、直射日光が当たる場所、高温または多湿の場所、砂やホコリの多い場所への設置は避けてください。

D. 取扱について

- ◆お手入れは、柔らかい布でかるく拭くか、中性洗剤を使い強く絞った布で汚れをとったあと、柔らかい布で空拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコール類は変色や変形の原因になりますので使用しないでください。
- ◆強い衝撃を加えたり、スイッチやツマミに必要以上の力を加えたりしないでください。
- ◆感電や故障の原因になりますので、止めネジ類をはずしたり、内部に触れたりしないでください。
- ◆他社のトランスミッター、レシーバーと組み合わせての使用については動作の保証はできません。
- ◆水等で濡れた場合は電源を切って、乾いた布で拭き取ってください。


3. 保証書／アフターサービスについて

A. 保証書について

- ◆製品に添付されている保証書には、お買い上げ店の捺印が必要です。所定事項をご確認の上、大切に保管してください。
- ◆お買い上げ日より1年間は保証期間となり、保証書の記載事項の範囲内で無償修理させていただきます。修理依頼はお買い上げ店またはアフターサービス機関へご用命ください。
- ◆改造等の手が入えられた事が認められた場合は保証期間であっても修理時に保証書の適用が受けられなくなりますのでご注意ください。
- ◆マイクロホンカートリッジ、ウインドスクリーン、マイクロホンのアクセサリおよびバッテリーは消耗品です。製品保証期間内でも弊社保証の対象から外させていただきます。

B. アフターサービスについて

- ◆本機に故障や異常が生じた場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げ店またはアフターサービス機関へご相談ください。
- ◆保証期間中に修理を依頼される時
保証書の記載事項の範囲内で弊社アフターサービス機関が修理をさせていただきます。修理を依頼される場合は「製品名・品番・くわしい故障の内容や異常の状況・購入年月日・住所・氏名・電話番号」を必ずご連絡ください。
- ◆保証期間経過後に修理を依頼される時
修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料で修理いたします。修理を依頼される場合は「製品名・品番・くわしい故障の内容や異常の状況・購入年月日・住所・氏名・電話番号」を必ずご連絡ください。
- ◆修理には高度な技術を要しますので正規のアフターサービス機関以外での修理はしないでください。
- ◆レシーバー、トランスミッターには非常にデリケートな精密部品を使用しています。運送に際しては、くれぐれも注意して荷造りをしてください。



新電波法に適合した300MHz帯（C型）と800MHz帯（A型B型）以外の旧電波法に基づくワイヤレスシステムは平成8年（1996年）5月27日からご使用できません。また、メーカーもそれらの機器に対するメンテナンスは同時に中止します。

4. 各部の名称と働き

A. UR-5J/UR-5DJ レシーバー/フロントパネル

①電源スイッチ

レシーバー本体の電源の ON/OFF スイッチです。電源を ON するとディスプレイセクションが点灯します。



ポップノイズによるアンプ、スピーカー等への影響をなくすために、パワーを ON したときに 3 秒間、自動的にミュートがかかります。

②AF レベル

レシーバーから出力されるオーディオ信号のレベルを調節します。右に回すほどレベルは増大し、左いっぱいに戻すとレベルはゼロになります。通常は 5 から 9 の付近で使用します。

③グループ

1～6のグループを選択します。

④チャンネル

設定したグループ内でチャンネルを選択します。

各グループで選択できるチャンネルは下表の通りです。

グループ	チャンネル						合計
	1	2	3	4	5	6	
1～4	○	○	○	○	○	○	24
5	○	○	○	○	○	×	5
6	○	×	×	×	×	×	1

RF レベル メーターでチェックし、近くで使っていないチャンネルをお選びください。



- ディスプレイセクションの「AVAILABLE」の表示が点灯しない場合は、受信できないチャンネルです。他のチャンネルに切り替えてご使用ください。グループ/チャンネルを切り替えたときに、3 秒間のミュートが自動的にかけられます。
- グループ、チャンネルのノブは、360 度回転しますが、表示のないところでは受信できません。

⑤ディスプレイセクション

レシーバーの動作状況を表示します。また電源の ON/OFF 表示の役目もします。

①ダイバーシティ A/B 表示

トランスミッターから電波を受信すると A/B どちらかの LED が点灯します。2つの受信回路より常時どちらか一方の強い電波を選び表示します。

このスイッチングのプロセスは音響的にはまったく聞こえず、混信、位相干渉、デッドポイントなどの問題を減少させるために大きな効果を発揮します。

②アベイラブル（受信可能）表示

設定されたチャンネルが受信可能な場合に点灯します。もしこの LED が点灯していない場合は使用できませんので他のチャンネルを選んでください。

③ミュート表示

トランスミッターの「AUDIO」スイッチを OFF した時にミュート機能が作動し「MUTE」が点灯します。スイッチを ON すると消灯し、オーディオ信号が出力されます。

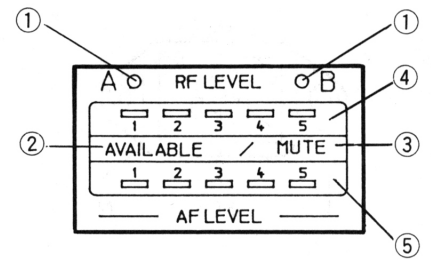
④ RF レベルメーター

5 セグメント LED により受信回路 A/B の選択された受信回路の RF 信号レベルを表示します。すべての LED が点灯すると最良の受信状態となります。「1」の LED しか点灯しない場合は最小レベルであり、なにも点灯しない場合は受信していません。

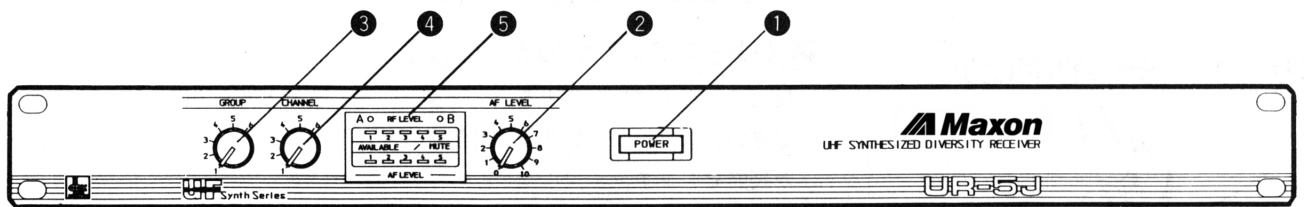
⑤ AF レベルメーター

5 セグメント LED によりオーディオ信号出力レベルを表示します。「4」の LED が点灯したとき出力レベルは 0 dBm です。一番強いレベルの時に、「5」の LED が点灯するようにトランスミッターの入力ボリュームを調節してください。

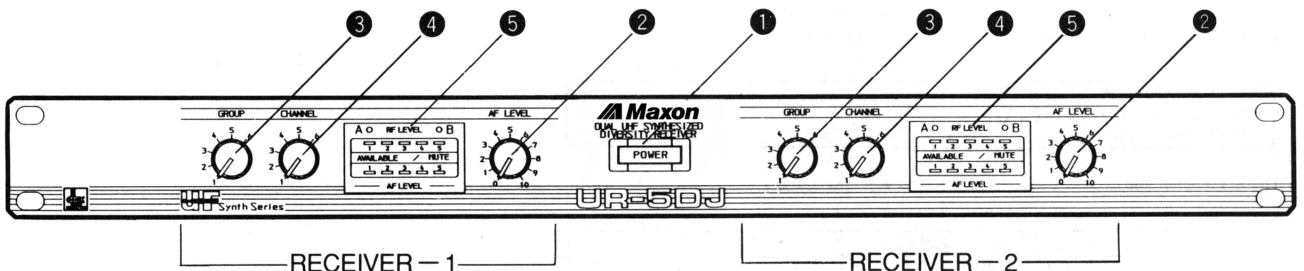
ディスプレイセクション



UR-5J

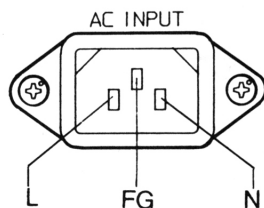


UR-5DJ



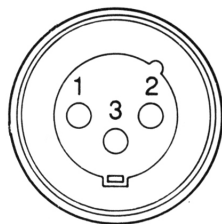
各部の名称と働き

インレットの端子配置



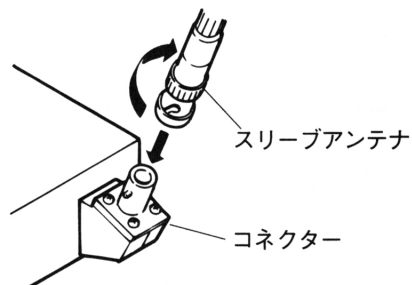
L : LOAD
FG : FRAME GROUND
N : NEUTRAL

XLRコネクターのピン配置



① : GROUND
② : HOT
③ : COLD

スリーブアンテナの取付け方法



B. UR-5J/UR-5DJ レシーバー/リアパネル

①電源プラグインレット

付属の AC コードを接続してください。



接続したまま移動しますと、故障の原因となりますので、コードは抜いて移動してください。

②バランス XLR 出力

プロ用機器にはバランス式の XLR 出力をご使用ください。
ピンの配置については図をご参照ください。



ミキサーからファンタム電源を供給しないでください。

③アンバランスホーン出力

民生用機器に接続する場合はアンバランス式のホーンジャック出力をご使用ください。

④出力ミックススイッチ (UR-5DJ のみ)

このスイッチが ON の場合はレシーバー 1 と、レシーバー 2 の出力がミックスされ、両方のレシーバーのバランス出力およびアンバランス出力に出力されます。このスイッチが OFF の場合はそれぞれのレシーバー出力から出力されます。



バランス出力、アンバランス出力には同じ信号が出力されています。

⑤アンテナ入力コネクタ

付属のアンテナまたはオプションの専用アクティブパワードアンテナ AN-81 を接続してください。それ以外のアンテナは故障の原因となりますのでご使用できません。



アンテナ入力コネクタには AN-81 用のファンタム電源が供給されていますので、ショートしないでください。

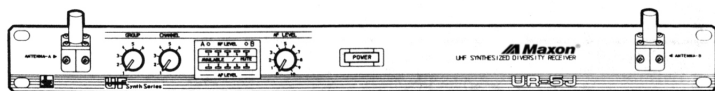
■スリーブアンテナの取付け方法

付属のスリーブアンテナをコネクタに差し込み、時計方向に回してロックしてください。スリーブアンテナは可倒式(チルト)ですので、設置条件に合わせて角度が調節できます。



良好なダイバーシティ特性やオペレーティングレンジ(受信感度)を得るためにアンテナAとアンテナB間は平行に、またケースと垂直にセッティングしてください。

UR-5JF シングルレシーバーw/フロントアンテナ 【受注生産】



UR-5DJF デュアルレシーバーw/フロントアンテナ 【受注生産】

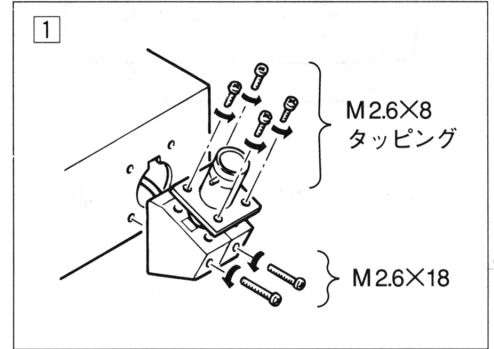


*フロントパネルにアンテナ入力コネクタをマウントしたモデルです。

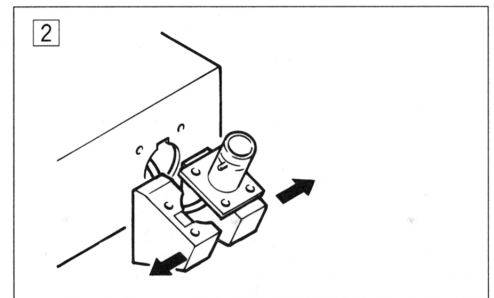
■アンテナ入力コネクターの角度の変更方法

アクティブパワーアンテナ AN-81 やアンテナディストリビューションアンプ DA-5J をご使用の場合は、アンテナ取付け BNC コネクターを本体ケースのビスは取り外さずに、直接リアパネルに取付けることができます。

- ① BNC コネクターを固定しているタッピングビス M2.6×8-4 本を取り外します。
次にアンテナホルダーを固定しているビス M2.6×18-2 本を取り外します。

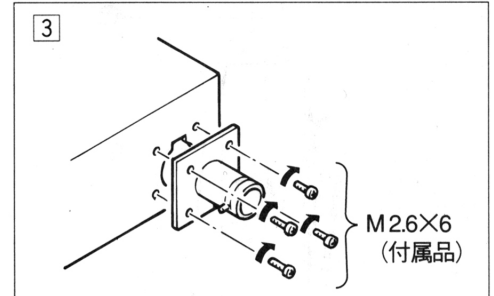


- ② アンテナホルダーを左右に割りながら取り外します。

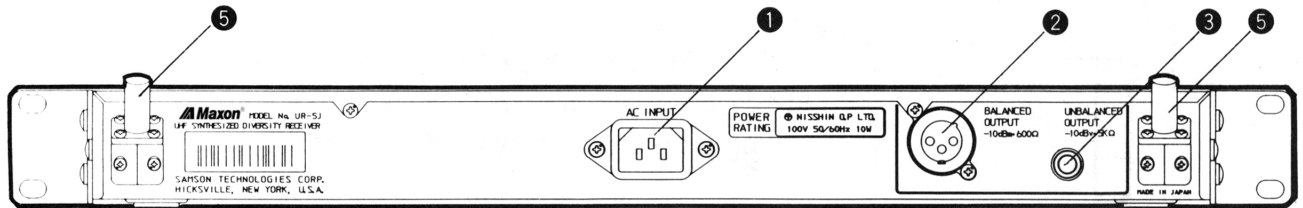


⚠ アンテナホルダー、アース板とタッピングビス M2.6×8-8 本、
ビス M2.6×18-4 本は大切に保管してください。

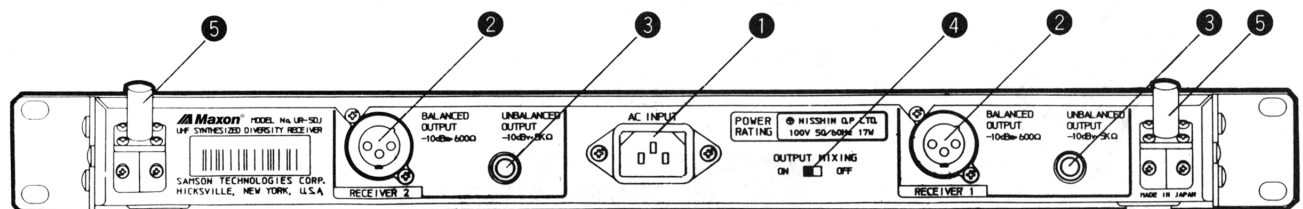
- ③ 取り外したコネクターを直接リアパネルに付属のビス M2.6×6-4 本で取付けます。
(アンテナホルダーを取付ける場合はこの逆の手順で行ってください。)



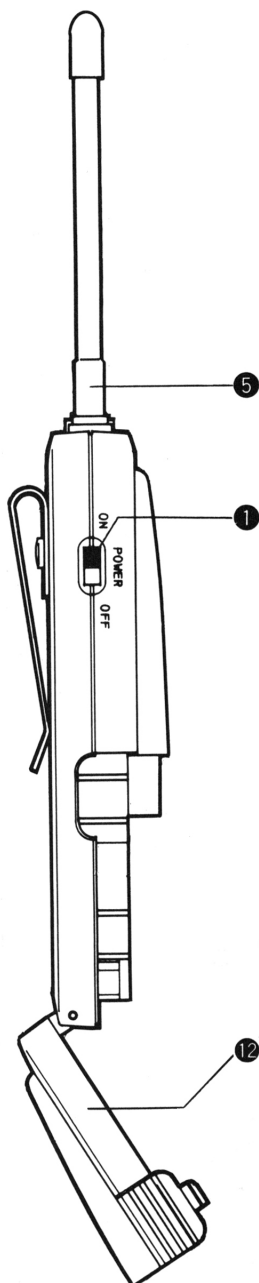
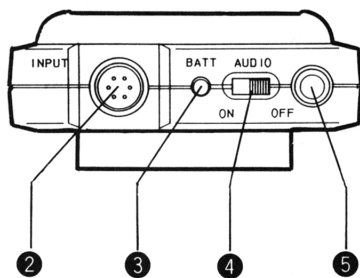
UR-5J



UR-5DJ



UT-5J ベルトパックトランスミッター



C. UT-5Jベルトパックトランスミッター

①電源スイッチ

ON で電源が入り、電波が送信されます。この時バッテリーインジケータ LED が一瞬点灯し消えます。OFF で電源が切れます。バッテリーを長持ちさせるため、使用しないときは電源を切ってください。電源スイッチを ON/OFF する場合はレシーバーのボリュームをゼロにし、オーディオスイッチを OFF してから行ってください。



ポップノイズによる、スピーカーやアンプへのダメージを避けるためにトランスミッターの電源を ON/OFF する場合にはレシーバーのボリュームをゼロにし、使用しているアンプやミキサーはミュートしてください。電源スイッチを ON すると電波法で定められた呼出名称を自動送信します。その間（約3秒間）はワイヤレスマイクとして動作しません。電源の再投入は5秒後に行なってください。

②マルチピン入力コネクタ

マイクのコネクタ、またはインストゥルメント用ホンケーブルを接続します。コネクタを右または左に回しながら押し込んでください。確実に接続すると自動的にロックします。外す場合は外側のスリーブを持ってそのまま引き抜いてください。詳しくは「UT-5Jのマルチピンとラベリアマイクとの接続例」をお読みください。

③バッテリーインジケータ

電源 ON の確認とバッテリーの交換時期を知らせる役目をします。

電源スイッチを ON にしたときのインジケータの表示

インジケータ	バッテリーの状態
瞬間点灯し、すぐ消える	正常です
点灯したまま消えない	バッテリーが消耗しています
まったく点灯しない	バッテリーが完全に消耗しています
	バッテリーが入っていない
	バッテリーが正しく入っていない

④オーディオスイッチ

このスイッチが ON の状態でオーディオ信号とトーン信号が変調されます。OFF の状態では、電波は送信されていますがオーディオ信号とトーン信号は変調されません。一時的にマイクを使用しない場合やポップノイズなどを防止するためにご使用ください。



OFF の状態でも電波は送信されますのでバッテリーは消耗します。長時間使用しない場合は電源を切ってください。

⑤アンテナ

このアンテナは取り外しができません。



曲げたり、無理な力を加えないように注意してください。

⑥ グループ

1～6のグループを選択します。

⑦ チャンネル

設定したグループ内でチャンネルを選択します。

各グループで選択できるチャンネルは下表の通りです。

グループ	チャンネル						合計
	1	2	3	4	5	6	
1～4	○	○	○	○	○	○	24
5	○	○	○	○	○	×	5
6	○	×	×	×	×	×	1



アンアベイラブル表示が点灯している場合は使用できないチャンネルで送信できません。グループやチャンネルを切り替えた時に3秒間のミュートが自動的にかけられます。

⑧ マイクレベル調節

マイクヘッドプリアンプ（アクティブ）のゲイン（0～+26dB）を可変します。付属のプラスチックドライバーで調節してください。

⑨ アンアベイラブル（送信不可）表示

設定したチャンネルが送信できない場合に点灯します。

⑩ 入力切り替えスイッチ

ギター、ベースなど楽器をご使用の場合は「INST」ポジションに、マイクをご使用の場合は「MIC」ポジションに設定してください。

⑪ 楽器用レベル調節

入力アッテネータ（パッシブ）のレベル（-∞～0 dB）を可変します。付属のプラスチックドライバーで調節してください。

⑫ バッテリーカバー

バッテリーカバーを「▲ OPEN」の方向に押さえながら持ち上げるとカバーがひらきます。バッテリーは極性をよくお確かめの上、9V アルカリ乾電池（東芝製 6LF22AG）をご使用ください。



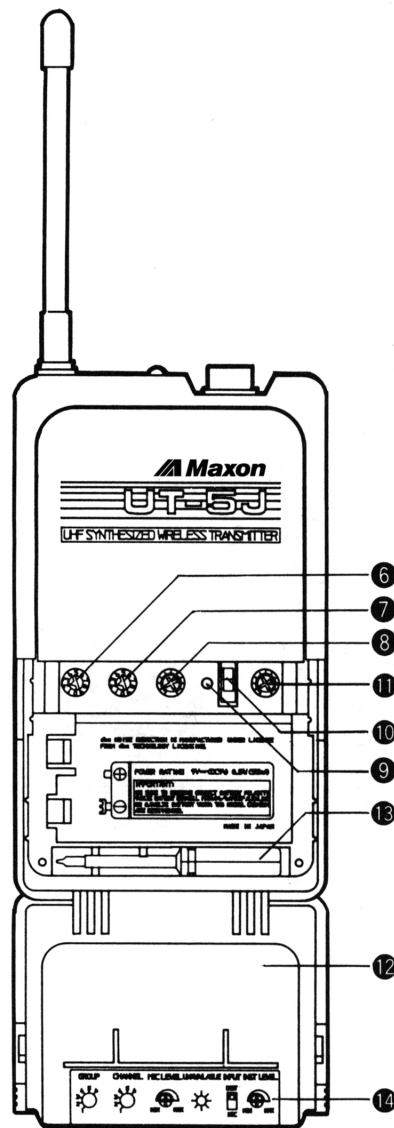
バッテリー交換の際はトランスミッターの電源スイッチを必ずOFFにしてください。

⑬ 調節用ドライバー

調節専用ドライバーです。

⑭ 調節部の表示


UT-5J ベルトパックトランスミッター



D. UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター

①電源スイッチ (バッテリーカバー内)

ON で電源が入り、電波が送信されます。この時バッテリーインジケータ LED が一瞬点灯し消えます。OFF で電源が切れます。バッテリーを長持ちさせるため使用しないときは電源は切ってください。電源スイッチを ON/OFF する場合はオーディオスイッチを OFF してから行なってください。




ポップノイズによる、スピーカーやアンプへのダメージを避けるためにトランスミッターの電源を ON/OFF する場合にはレシーバーのボリュームをゼロにし、使用しているアンプやミキサーはミュートしてください。電源スイッチを ON すると電波法で定められた呼出名称を自動送信します。その間 (約 3 秒間) はワイヤレスマイクとして動作しません。電源の再投入は 5 秒後に行なってください。

②マイクレベル調節 (バッテリーカバー内)

マイクヘッドプリアンプ (アクティブ) のゲイン (0 ~ +26dB) を可変します。付属のプラスチックドライバーで調節してください。

③バッテリーストッパー (バッテリーカバー内)

バッテリーカバーを反時計方向に回して下に引き抜いてください。バッテリーストッパーをいっばいに引き出し、バッテリーを抜き取ります。バッテリーは極性をよくお確かめの上、9V アルカリ乾電池 (東芝製 6LF22AG) をご使用ください。



バッテリー交換の際はトランスミッターの電源を必ず OFF にしてください。

④グループ (バッテリーカバー内)


1 ~ 6 のグループを選択します。

⑤チャンネル (バッテリーカバー内)

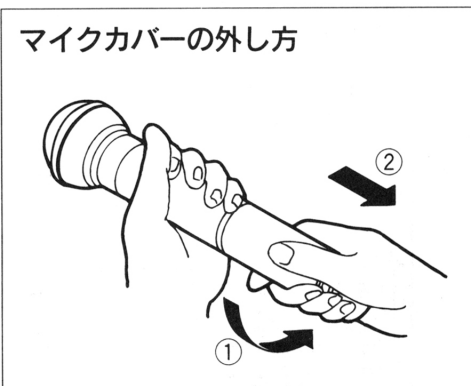
設定したグループ内でチャンネルを選択します。
各グループで選択できるチャンネルは下表の通りです。

グループ	チャンネル						合計
	1	2	3	4	5	6	
1~4	○	○	○	○	○	○	24
5	○	○	○	○	○	×	5
6	×	×	×	×	×	×	1

レシーバーの RF レベル メーターによって近くで使っていないチャンネルをお選びください。



アンアベイラブル表示が点灯している場合は使用できないチャンネルで送信できません。グループやチャンネルを切り替えた時に 3 秒間のミュートが自動的にかけられます。



D. UH-5Jハンドヘルドマイクトランスミッター

⑥ アンアベイラブル（送信不可）表示（バッテリーカバー内）

設定したチャンネルが送信できない場合に点灯します。

⑦ オーディオスイッチ

このスイッチが ON の状態でオーディオ信号とトーン信号が変調されます。OFF の状態では、電波は送信されていますがオーディオ信号とトーン信号は変調されません。一時的にマイクを使用しない場合やポップノイズなどを防止するためにご使用ください。



OFF の状態でも電波は送信されますのでバッテリーは消費します。長期間使用しない場合は電源を切ってください。

⑧ バッテリーインジケーター

電源 ON の確認とバッテリーの交換時期を知らせる役目をします。

電源スイッチを ON にしたときのインジケーターの表示

インジケーター	バッテリーの状態
瞬間点灯し、すぐ消える	正常です
点灯したまま消えない	バッテリーが消耗しています
まったく点灯しない	バッテリーが完全に消耗しています
	バッテリーが入っていない
	バッテリーが正しく入っていない

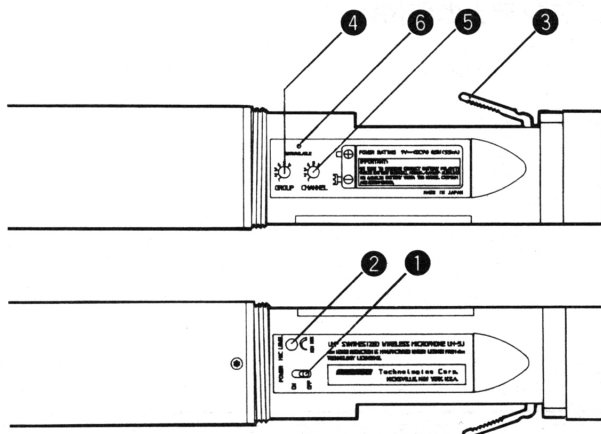


内蔵されたアンテナを覆うようにマイク中央部を持つと電波の放射効率に影響します。マイクは図のようにヘッド部のすぐ下を持ってご使用ください。

正しいマイクの持ち方



UH-5Jハンドヘルドマイクトランスミッターのスイッチ部



E. DA-5J アンテナディストリビューションアンプ

1. フロントパネル

①電源スイッチ

本体の電源の ON/OFF スイッチです。

②電源LED表示

電源を ON すると点灯します。

2. リアパネル

③電源プラグインレット

付属の AC コードを接続してください。



接続したまま移動しますと故障の原因となりますのでコードは抜いて移動してください。

④アンテナ入力コネクター

レシーバーに付属のアンテナまたはオプションの専用アクティブパワードアンテナ AN-81 を接続してください。



指定外のアンテナは故障の原因となりますのでご使用できません。アンテナ入力コネクターには AN-81 用のファンタム電源が供給されていますので、ショートしないでください。

⑤アンテナ出力コネクター

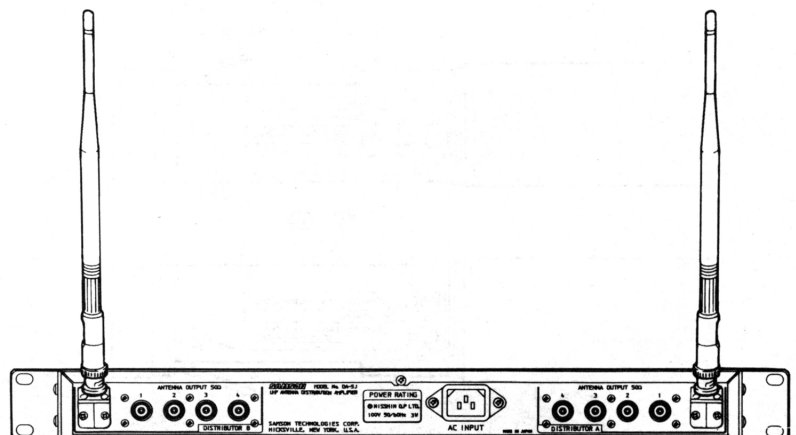
各レシーバーに分配するためのアンテナ出力です。

接続にはオプションの専用アンテナ分配ケーブル AW-0.6 をご使用ください。

3. レシーバーに付属のアンテナを使用する場合

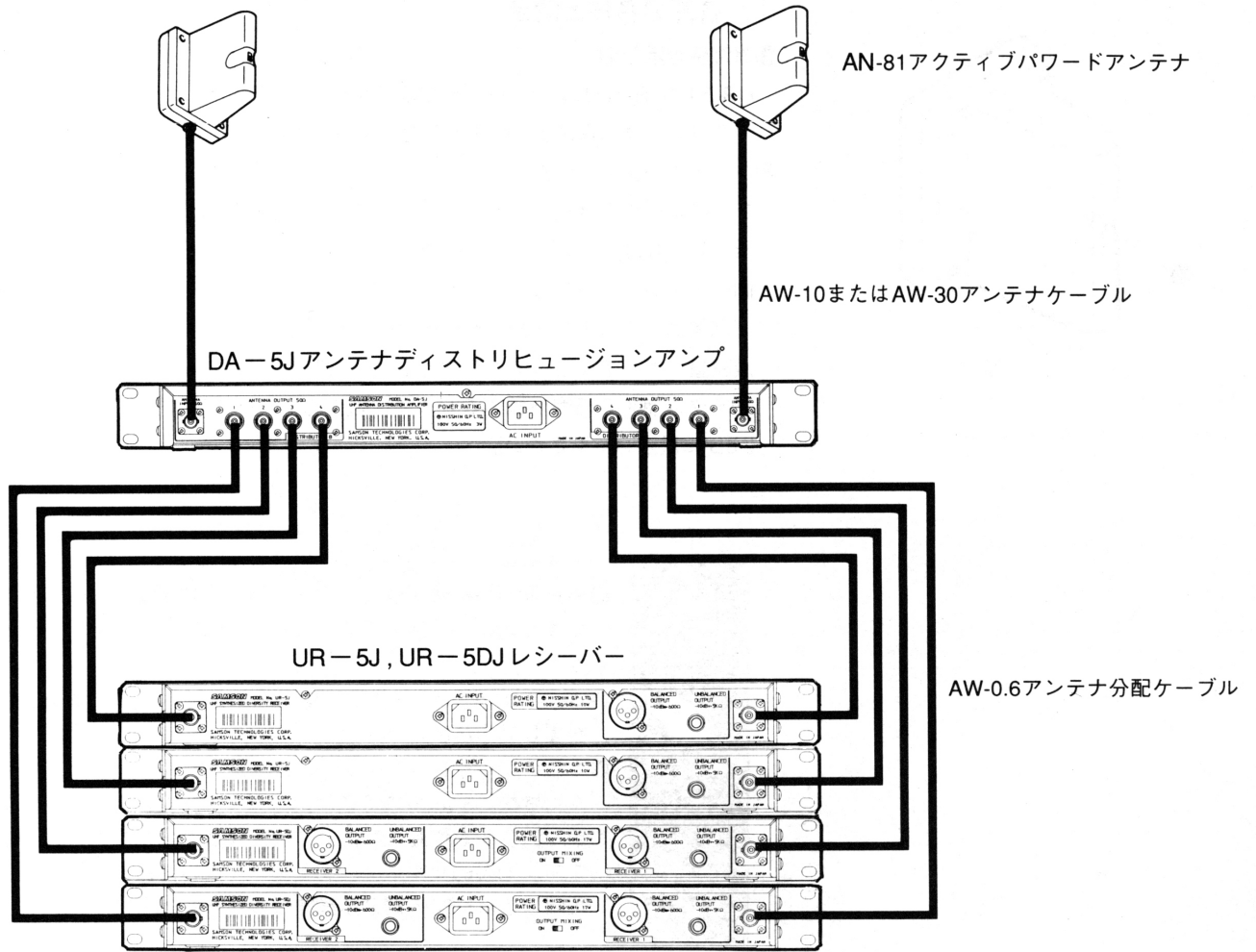
レシーバーに付属のアンテナをご使用になる場合は、レシーバーのアンテナホルダーを使って角度を変更することができます。詳しくは「アンテナ入力コネクターの角度の変更方法」をお読みください。

リアパネル/アンテナの取付け

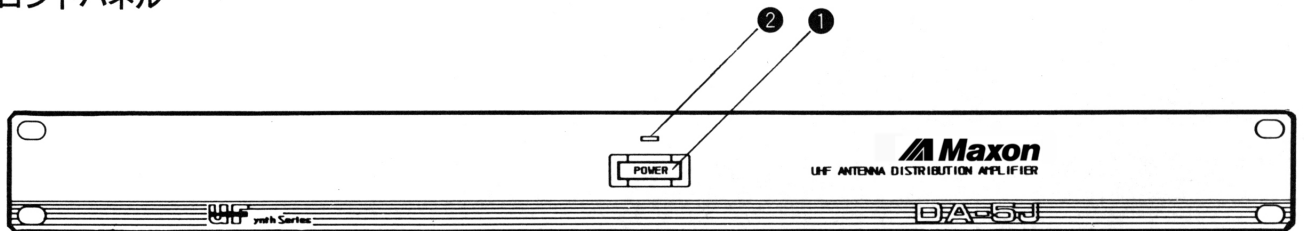


E. DA-5J アンテナディストリビューションアンプ

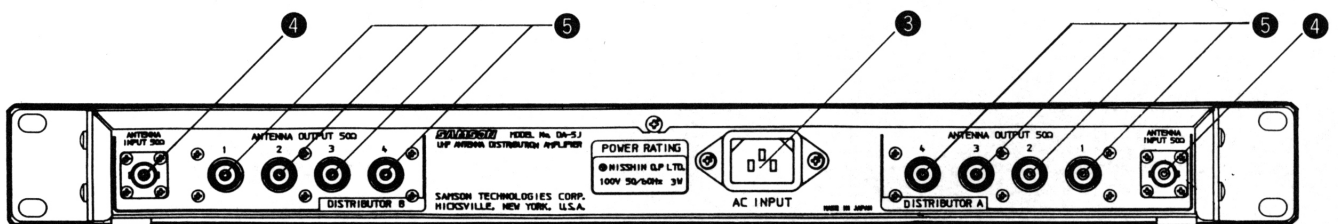
アンテナディストリビューションアンプ接続図



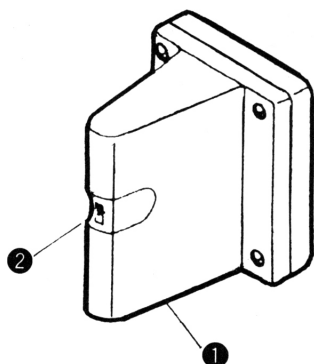
フロントパネル



リアパネル



AN-81アクティブパワードアンテナ



F. AN-81 アクティブパワードアンテナ (かべ取付け用)

1. 各部の名称と働き

①電源確認用 LED

UR-5J/UR-5DJ レシーバーまたは DA-5J アンテナディストリビューションアンプからファンタム電源が供給されると点灯します。

②アッテネータスイッチ

アッテネータの減衰量を 0 dB/−10dB/−20dB に設定するスイッチです。(工場出荷時は 0 dB に設定してあります。)

同一チャンネルや近接チャンネルのワイヤレスマイクを近くで使用したときに生じる混信は、アッテネータスイッチの設定を変えることで少なくすることができます。減衰量を多くすると混信が少なくなると同時に、受信レベルが低下し、ワイヤレスマイクの使える範囲が狭くなります。混信のない所では、アッテネータスイッチを 0 dB に設定してください。

● 外来電波の影響を少なくするために、高層階の室内などに設置する場合は、窓の近く (30cm 以内) には設置しないでください。

● 本機には上下があります。電源確認用 LED が下になるように設置してください。

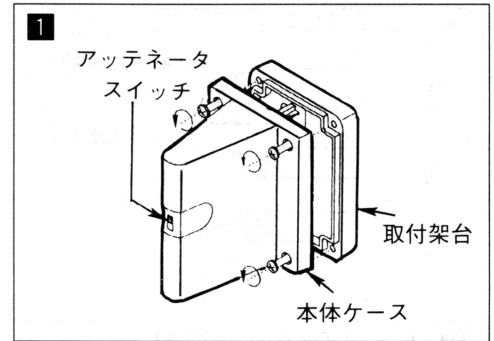
● 本機とワイヤレスマイクとの距離は、3 m 以上離してご使用ください。3 m 以内でご使用になりますと、使用していないチャンネルを作動させたり、混信などが発生することがあります。効果的なダイバーシティ受信のためにアンテナ間の距離は 3 m~20m 離して設置してください。

F. AN-81 アクティブパワードアンテナ（ケーブル取付け用）

2. 設置のしかた

1 本体ケースをはずします。

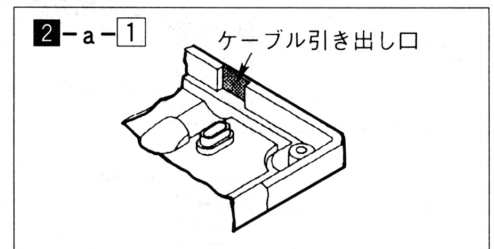
本体のネジ 4 本をゆるめ、本体ケースをはずします。



2 同軸ケーブルを取付架台に通します。

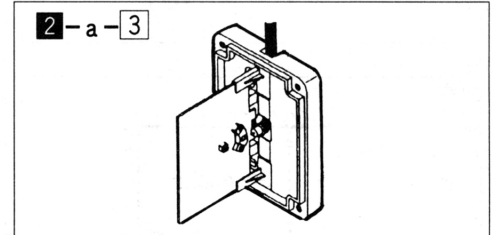
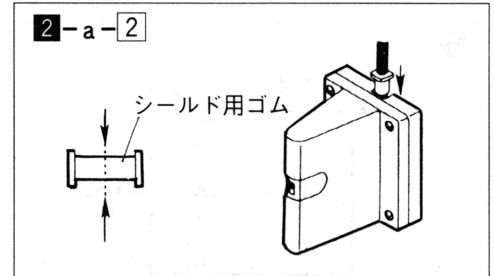
a. 同軸ケーブルを天井または床から壁面に沿って配線する場合

- 1 取付架台のケーブル引き出し口をニッパなどであけます。
- 2 付属のシールド用ゴムを半分に切断し、接続するケーブルに通しておきます。
(ケーブル取付後、引き出し口に押し込みます。)



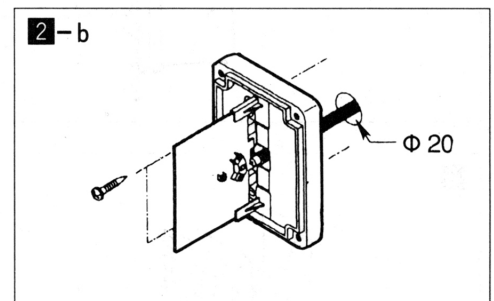
シールド用ゴムは共通部品のため、内径の小さい方には 5C-FB と、大きい方には 7C-FB と刻印されていますが、小さい方は 5D-FB に、大きい方は 8D-FB にお使いください。

- 3 同軸ケーブルを図のように引き出します。



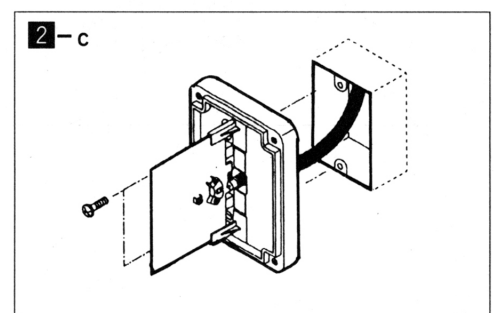
b. 同軸ケーブルを壁面から直出しする場合

壁面に $\phi 20$ mm 程度の穴を開け、同軸ケーブルを図のように引き出します。



c. 同軸ケーブルが埋込み電工ボックスで配線されている場合

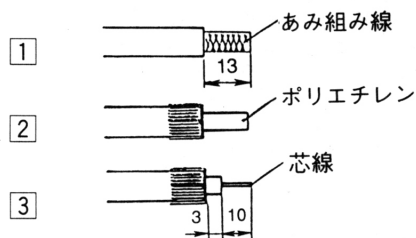
電工ボックス（取付ピッチ 83.5mm）から出た同軸ケーブルを図のように引き出します。



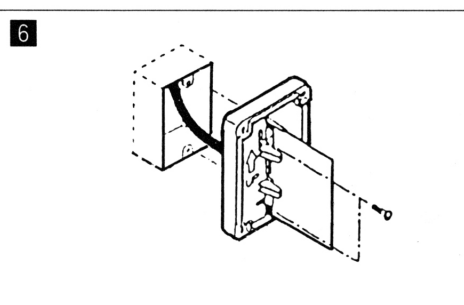
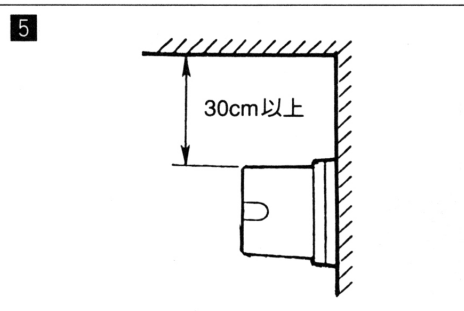
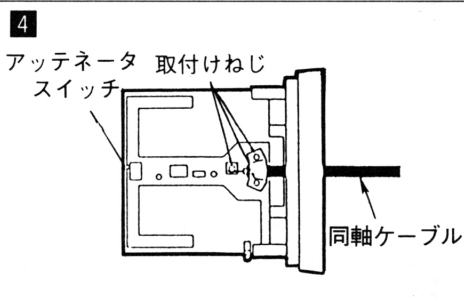
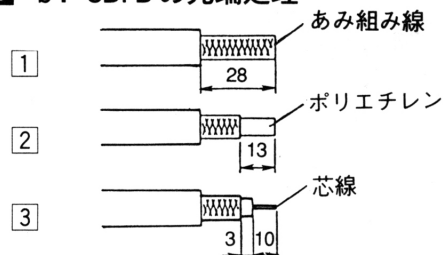
設置の際、配線処理の終わった同軸ケーブルを押し込みますので、配管は十分余裕のある太いパイプをご使用ください。

各部の名称と働き

3-a. 5DFDの先端処理



3-b. 8DFBの先端処理



3 同軸ケーブルの先端処理をします。

a. 5D-FBの先端処理のしかた

- ① 端から 13 mm のところまで外被をむきます。
- ② あみ組線をほぐして折り返し、アルミ箔を切り取ります。
- ③ 端から 10 mm のところで、発泡ポリエチレンを切り取ります。

b. 8D-FBの先端処理のしかた

- ① 端から 28 mm のところまで外被をむきます。
- ② 端から 13 mm のところであみ組線を切り、アルミ箔を切り取ります。
- ③ 端から 10 mm のところで、発泡ポリエチレンを切り取ります。

4 同軸ケーブルをアンテナ基板に取り付けます。

- ① アンテナ基板の同軸ケーブル取付ネジ 3 本を十分にゆるめます。
- ② 先端処理をした同軸ケーブルを挿入し、取付ネジ 3 本で締め付けます。

⚠ アンテナ基板は共通部品のため、「USE 5C-FB 7CFB ONLY」と表示されていますが、同軸ケーブルは5D-FB/8D-FBをご使用ください。

5 取付架台を壁または電気ボックスに取り付けます。

壁面には付属の木壁用ネジ（呼び4×25）で、電気ボックスには電気ボックス用ネジ（M3.5×20）で取り付けます。

⚠ 取付架台は、天井から 30 cm 以上離し、↑を上にして取り付けてください。アンテナは垂直に取り付けてください。水平に取り付けると受信感度が低下します。

6 本体ケースを取付架台に取り付けます。

電源確認用のLEDが下になるように、本体ケースを取付架台に取り付けます。

⚠ 本体ケースのアッテネータスイッチつまみと、アンテナ基板のスイッチつまみの位置を合わせてから、本体ケースを取付けてください。

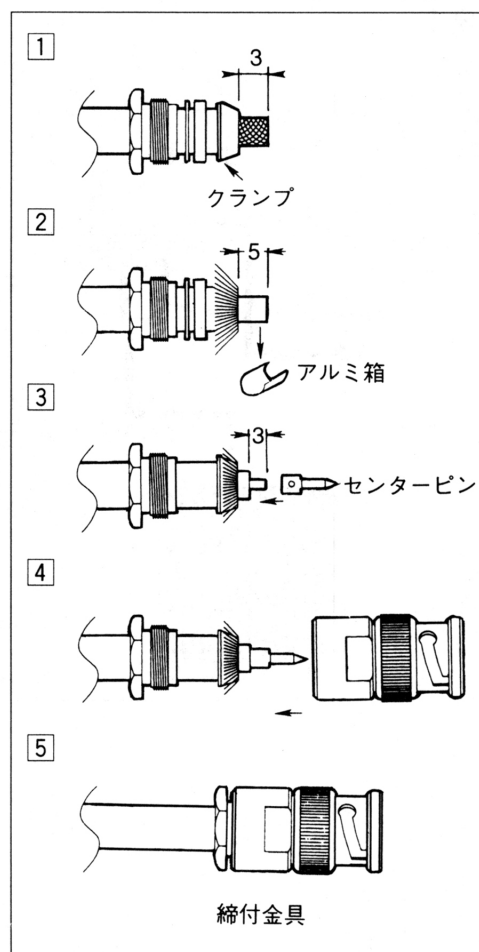
F. AN-81 アクティブパワードアンテナ (かべ取付け用)

3. BNC プラグと同軸ケーブルの接続のしかた

- a. 配線に使用するケーブルは MAXON 純正ケーブル AW-30 (30 m)、AW-10 (10 m) またはインピーダンス 50 オーム、低損失タイプの 5D-FB、8D-FB などのケーブルをご使用ください。同軸ケーブルはできる限り短く設置してください。同軸ケーブルが長いほど伝送損失が増加し、太くて短いほど減少します。同軸ケーブルは藤倉電線社製を推奨します。BNCプラグは、ケーブルに合わせてBNCP-5DFB/BNCP-8DFBをお使いください。

b. 同軸ケーブルとBNCプラグは、別にお買い求めください。

- ① 端から5 mmのところを外被をはがします。
- ② あみ組線をほぐして裏返し、クランプの上に重ね、アルミ箔を剥します。
- ③ クランプの直径より長いあみ組線は切断します。端から3 mm のところで発泡ポリエチレンを切り芯線をだし、センターピンを芯線にかぶせ半田付けします。
- ④ プラグ本体を同軸ケーブルに差し込みます。
- ⑤ プラグ本体をかぶせ、締め付け金具 (ナット) を締め付けて固定します。



ワイヤレスアンテナ同軸ケーブル減衰量一覧表

マクソンワイヤレスシステムは50Ω、75Ωいずれのインピーダンスでもご使用いただけます。減衰量10dB未満でご使用ください。10dB以上になる場合はアンテナブースタなどが必要になります。詳細はお問い合わせください。

(単位: dB)

種類	長さ	5m	10m	15m	20m	25m	30m	40m	50m	60m	70m	80m	90m	100m
	50Ωケーブル													
3D2V		2.10	4.20	6.30	8.40	10.50	12.60	16.80	21.00	25.20	29.40	33.60	37.80	42.00
5D2V		1.35	2.69	4.04	5.38	6.73	8.07	10.76	13.45	16.14	18.83	21.52	24.21	26.90
5DFB		0.93	1.87	2.80	3.73	4.67	5.60	7.47	9.33	11.20	13.07	14.93	16.80	18.67
8D2V		0.91	1.83	2.74	3.65	4.56	5.48	7.30	9.13	10.96	12.78	14.61	16.43	18.26
8DFB		0.64	1.27	1.91	2.54	3.18	3.81	5.08	6.36	7.63	8.90	10.17	11.44	12.71
10D2V		0.70	1.40	2.10	2.79	3.49	4.19	5.59	6.98	8.38	9.78	11.17	12.57	13.97
10DFB		0.54	1.08	1.61	2.15	2.69	3.23	4.30	5.38	6.45	7.53	8.60	9.68	10.75
12DSFA		0.36	0.71	1.07	1.43	1.78	2.14	2.85	3.57	4.28	5.00	5.71	6.42	7.14
75Ωケーブル														
3C2V		2.40	4.80	7.20	9.60	12.00	14.40	19.20	24.00	28.80	33.60	38.40	43.20	48.00
5C2V		1.40	2.80	4.20	5.60	7.00	8.40	11.20	14.00	16.80	19.60	22.40	25.20	28.00
5CFV		1.08	2.15	3.23	4.30	5.38	6.45	8.60	10.75	12.90	15.05	17.20	19.35	21.50
5CFB		1.03	2.05	3.08	4.10	5.13	6.15	8.20	10.25	12.30	14.35	16.40	18.45	20.50
7C2V		1.30	2.59	3.89	5.18	6.48	7.77	10.37	12.96	15.55	18.14	20.73	23.32	25.91
7CFV		0.75	1.50	2.25	3.00	3.75	4.50	6.00	7.50	9.00	10.50	12.00	13.50	15.00
7CFB		0.65	1.30	1.95	2.60	3.25	3.90	5.20	6.50	7.80	9.10	10.40	11.70	13.00
10C2V		0.98	1.97	2.95	3.94	4.92	5.90	7.87	9.84	11.81	13.78	15.74	17.71	19.68

5. セットアップ

例 1. シングルシステム

UR-5J シングルレシーバー	1台
UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター	1台

●レシーバーのセットアップ

- 1 レシーバーにアンテナをマウントしてください。
- 2 レシーバーと、使用するトランスミッターが常時、見通せる場所を選んで設置してください。アンテナの近く（30cm 以内）に電線や金属物がないことを確認してください。



熱を発生するパワーアンプやギターアンプの上には設置しないでください。

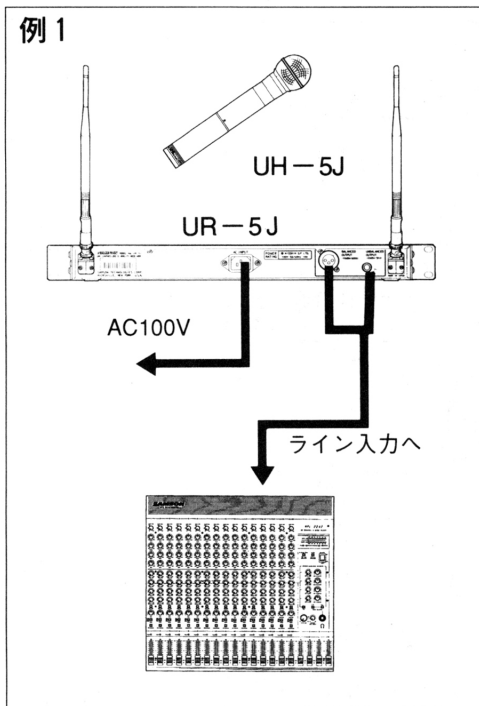
- 3 レシーバーをアンプやミキサーに接続してください。プロ用機器にはバランス出力端子の使用をお勧めします。
- 4 RF レベルメーターを見ながら使用していないグループ／チャンネルに設定してください。

●UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッターのセットアップ

- 1 バッテリーを入れてください。
- 2 レシーバーと同じグループ／チャンネルに設定してください。
- 3 バッテリーカバー内にあるトランスミッターの電源を ON して、レシーバーの RF レベル表示 がすべて点灯するか確認してください。
- 4 オーディオのレベルを設定します。トランスミッターを動作させ、本番と同じ音量で使用しながら、徐々にトランスミッターのマイクレベルを調節し、最大で、ときどきレシーバーの AF インジケータの「5」 が点灯するレベルに設定します。もし歪んでいる場合は左に回して適切なレベルに調節してください。



あらかじめ使用する範囲を歩き、チェックすることをお勧めします。



例 2. デュアルシステム	
UR-5DJ デュアルレシーバー	1 台
UT-5J ベルトパックトランスミッター	2 台

●レシーバーのセットアップ

1 例 1 を参考にしてください。2 台以上同時に使用する場合は、混信などの問題を避けるために各々のチャンネルを同一のグループ内に設定してください。

2 2 台の出力を別々に出力する場合はリアパネルの出力ミックススイッチを OFF してください。2 台の出力をミックスしたい場合はこのスイッチを ON にしてください。

●UT-5J ベルトパックトランスミッターのセットアップ

1 ラベリアマイクまたはインストール用ケーブルのコネクターを UT-5J に接続してください。コネクターを右または左に回しながら押し込んでください。確実にコネクトすると自動的にロックします。外す場合はコネクターの外側のスリーブを持ってそのまま引き抜いてください。



ケーブルを持って引っ張ると不良の原因となりますのでご注意ください。

2 入力切り換えスイッチが正しい位置にあることを確認してください。ラベリアマイクを使用する場合、マイクをセットする位置により大きく音質が変わります。できるだけ口近くに、ただし息がかからないような位置がベストです。

3 バッテリーを入れてください。

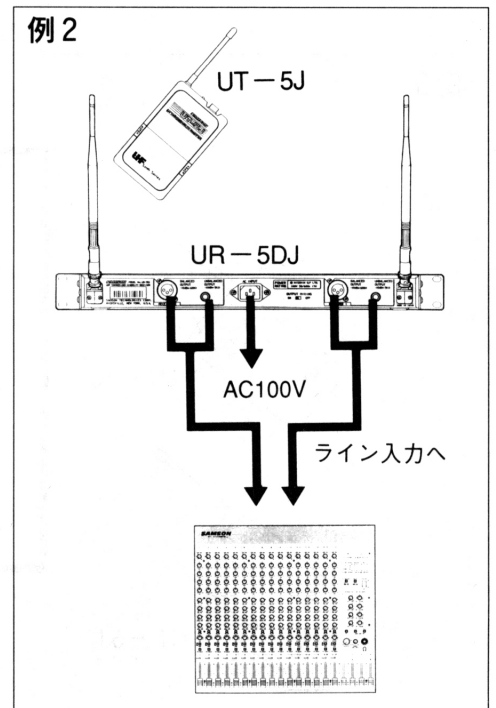
4 レシーバーと同じグループ/チャンネルに設定してください。

5 バッテリーカバー内にあるトランスミッターの電源を ON して、レシーバーの RF レベル表示 がすべて点灯するか確認してください。

6 オーディオのレベルを設定します。トランスミッターを動作させ、本番と同じ音量で使用しながら、徐々にトランスミッターのマイクレベルを調節し、最大で、ときどきレシーバーの AF インジケーターの「5」が点灯するレベルに設定します。もし歪んでいる場合は左に回して適切なレベルに調節してください。

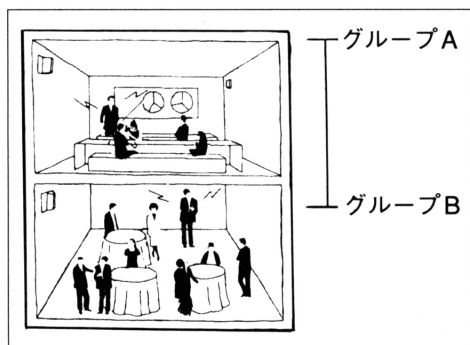
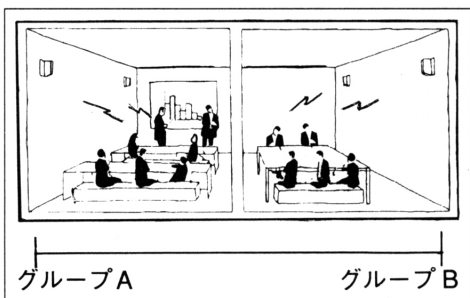
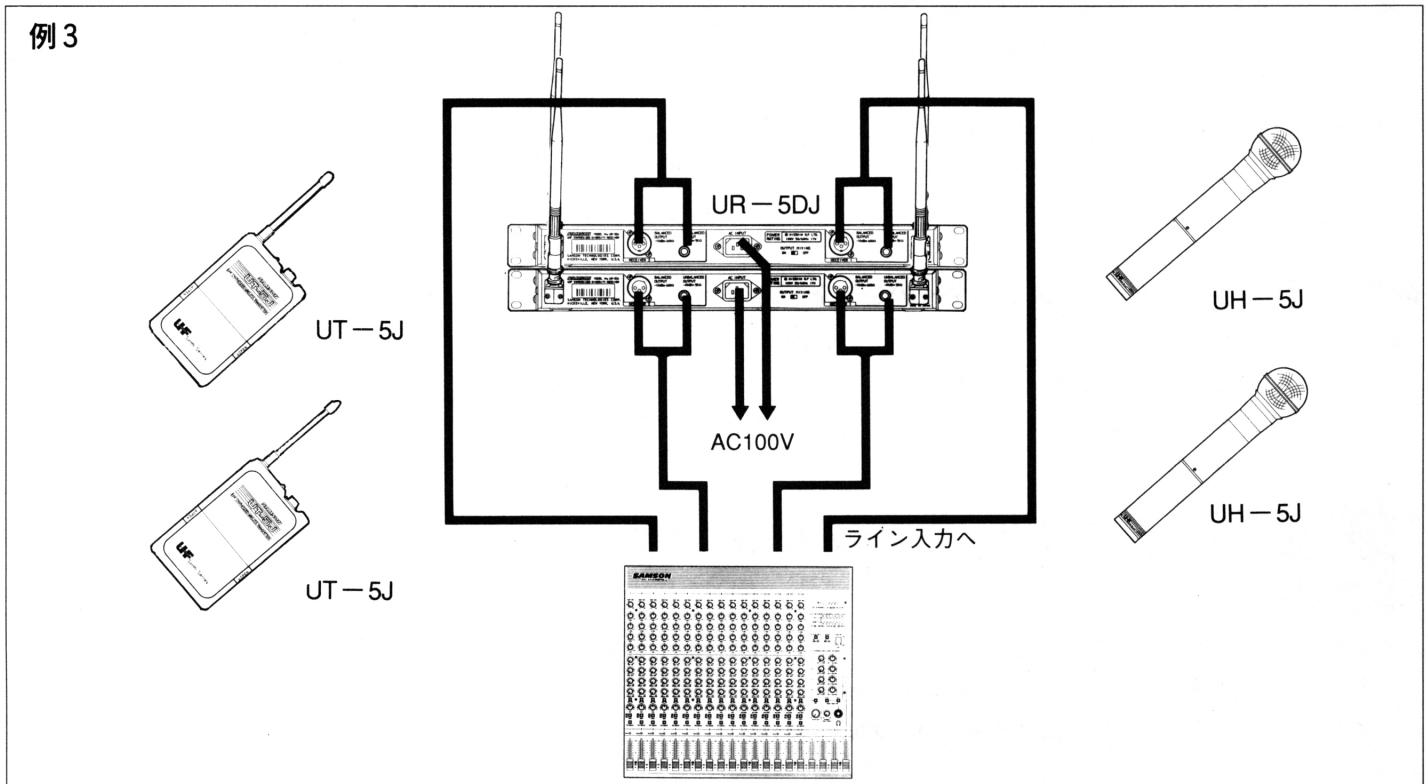


混信などの原因となりますのでトランスミッターとアンテナの距離は 3 m 以上離してください。
 複数のトランスミッターを使用する場合、各トランスミッターの距離は 50cm 以上離してください。
 使用しないチャンネルがある場合は、レシーバーのボリュームを絞ってください。
 トランスミッターの電源を ON しない場合は、レシーバーのボリュームを絞ってください。



セットアップ

例 3. 4チャンネルシステム	
UR-5DJ デュアルレシーバー	2台
UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター	2台
UT-5J ベルトパックトランスミッター	2台



混信などの原因となりますのでトランスミッターとアンテナの距離は 3 m 以上離してください。
 複数のトランスミッターを使用する場合、各トランスミッターの距離は 50cm 以上離してください。
 使用しないチャンネルがある場合は、レシーバーのボリュームを絞ってください。
 トランスミッターの電源を ON しない場合は、レシーバーのボリュームを絞ってください。

●他のグループとの隣接使用について

同じ階で使用するとき

異なるグループのアンテナとワイヤレスマイクの距離は20m 以上離してください。

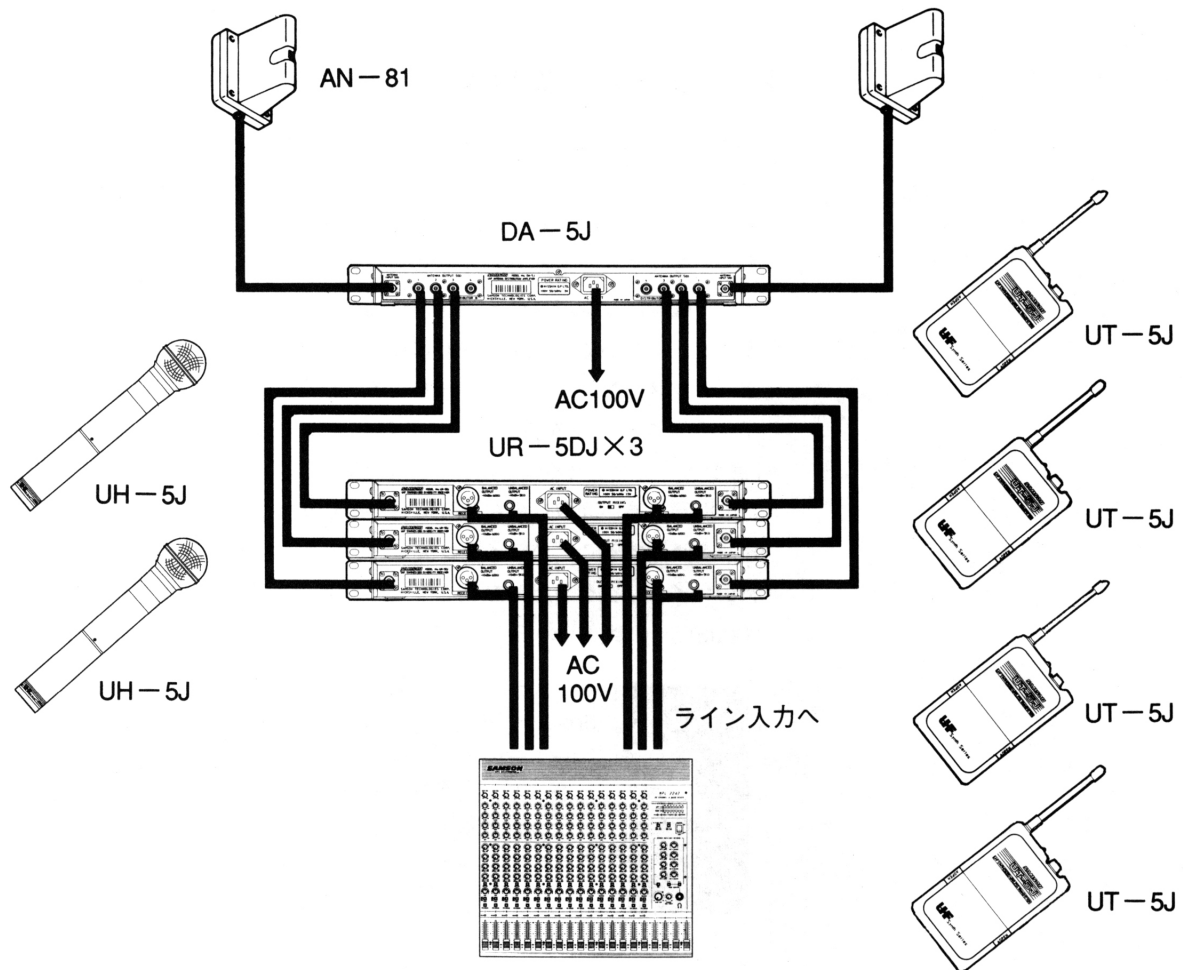
別の階で使用するとき

異なるグループのアンテナとワイヤレスマイクの距離は 10m 以上離してください。


距離は目安です。壁、天井、床の材質によって異なります。

例4. 6チャンネルシステム	
UR-5DJ デュアルレシーバー	3台
DA-5J デストリビューションアンプ	1台
AN-81 アクティブパワードアンテナ	2台
UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター	2台
UT-5J ベルトパックドランスミッター	4台

例4



- ◆DA-5J ディストリビューションアンプと AN-81 アクティブパワードアンテナ 2 台を AW-10 または AW-30 アンテナケーブルで接続してください。
- ◆UR-5DJ デュアルレシーバーのリアパネルのアンテナ入力コネクタの角度を変更して、アンテナ分配ケーブル AW-0.6 により DA-5J ディストリビューションアンプと接続してください。


 パワーアンプやギターアンプなどの金属部分が直接レシーバーに接触したり、近くに (30 cm 以内) 電線や、金属物などがある所では受信感度が低下しますので、離して設置してください。熱を発生するパワーアンプやギターアンプなどの上に設置しないでください。使用しないチャンネルがある場合は、レシーバーのボリュームを絞ってください。トランスミッターの電源を ON しない場合は、レシーバーのボリュームを絞ってください。

6. テクニカルガイド

A. スケルチ回路について

レシーバーには混信や不要なノイズをさけるため、トーンスケルチ回路を内蔵しています。トランスミッターで 38.4KHz のトーン信号を発振し、レシーバーではこの成分を検出して、オーディオ信号のミュート ON/OFF をします。従来品に比べて高い周波数のトーン信号を採用することによりオーディオ特性の改善にも大きく役だっています。

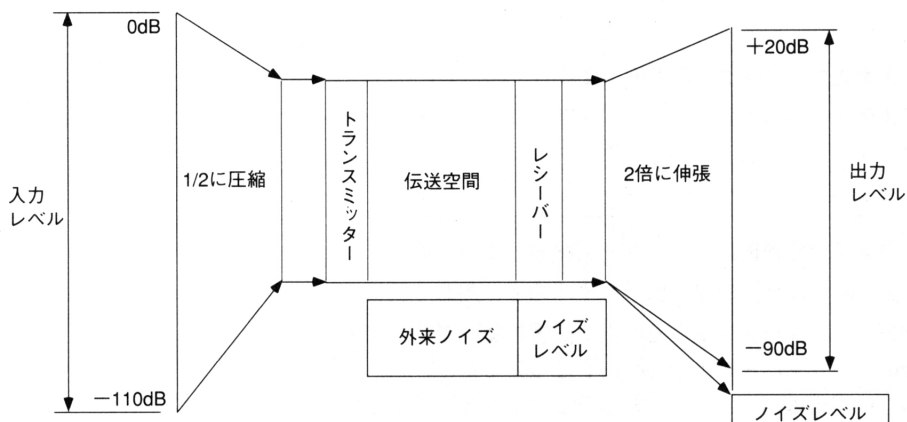
B. dbx ノイズリダクションシステム

ワイヤレスの一番大きな問題であった伝送中のノイズを最小限におさえること、また高品質でなおかつ高いダイナミックレンジと高 S/N 比を達成するためにコーディングにおいて最も信頼性の高いプロフェッショナル用 dbx type II ノイズリダクションシステムを **MAXON** は世界に先駆けてワイヤレスシステムに採用しています。一般的にコンパンダー回路は 2 つの大きなプロセスがあります。まずトランスミッターにおいて 1/2 に圧縮 (コンプレッシング) し、レシーバーにて 2/1 に伸張 (エクスパンディング) します。こうした一般的なコンパンダー回路は全体のダイナミックレンジを良くすることはできませんが、アタックやリリースにおいて、「息つき」と呼ばれる音が切れてしまう現象が起きてしまいます。

この問題と長い間取り組んだ結果 **MAXON** はエンベロープ検出回路において RMS 型を使用することがワイヤレスにおいて最も有効であると判断し、1986 年 dbx 社のノイズリダクション技術をワイヤレスシステムに応用する契約を結び、以後、**MAXON** の数多くのモデルに自社独自に専用 IC を開発し、採用しています。

dbx ノイズリダクションシステムの使用により、ヘッドルームがメーターのピーク表示よりおよそ 20dB ほど改善されます。したがって、聴感テストまたはその他の方法で信号レベルを最適に設定されるようお勧めします。このようにしてレベルが設定されると、メーターはピーク値を越えた表示をすることになります。

ノイズリダクションの動作原理

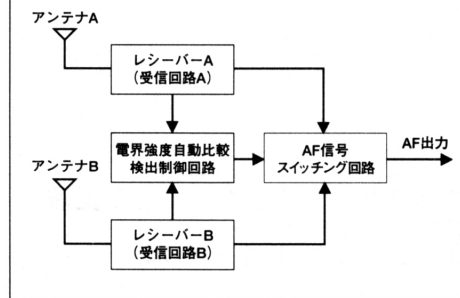


C. トウルーダイバーシティー方式

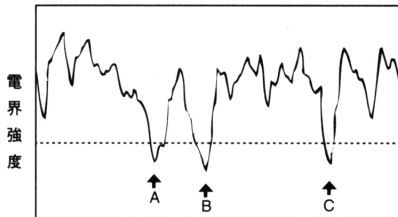
トウルーダイバーシティー方式は1つのレシーバーの中に独立した2系統のアンテナと受信回路から構成されています。2系統の受信回路は同時に同じ周波数（チャンネル）の電波を受信し、電界強度（電波の強さ）の高い受信回路を自動選択し、デッドポイントを大幅に軽減する受信方式です。

1系統のアンテナと受信回路の場合には電界強度がスケルチ感度（図1、図2で点線で示したレベル）以下となった時にデッドポイント（図1、図2でA～Hで示した矢印の部分）が発生します。ダイバーシティー受信ではレシーバーAの電界強度（図1）とレシーバーBの電界強度（図2）が合成（どちらか高い信号を選択）され、電界強度は図3で示すようになり点線で示したスケルチ感度レベル以下となる確率が大幅に改善され、ドロップアウトが軽減されます。

トウルーダイバーシティー方式の原理

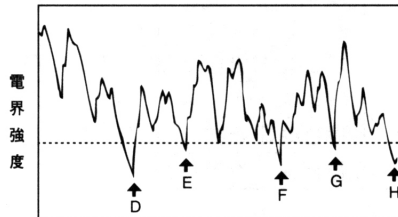


シングル受信（レシーバーA）の電界強度【図1】



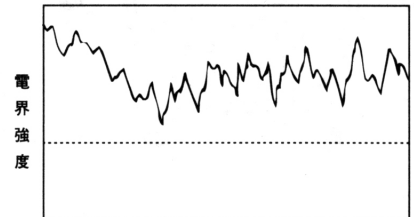
トランスミッターとレシーバー間の距離

シングル受信（レシーバーB）の電界強度【図2】



トランスミッターとレシーバー間の距離

ダイバーシティー受信（レシーバーA・B）の電界強度【図3】



トランスミッターとレシーバー間の距離

E. UT-5J のマルチピンとラベリアマイクとの接続例

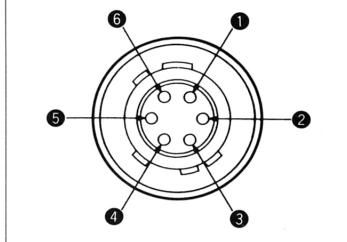
●UT-5J は各種のラベリアマイクや楽器に使用することができます。

MAXON 純正モデル

SENNHEISER	MKE-2	AKG	CK77WR
SENNHEISER	MKE2NB2	AKG	C419
SENNHEISER	MKE102	AKG	C420
SENNHEISER	MKE104	MAXON	ECM40
Sanken	COS11	MAXON	GC1

上記以外のマイクに対する特別注文も承ります。くわしくはお求めの販売店にご相談ください。

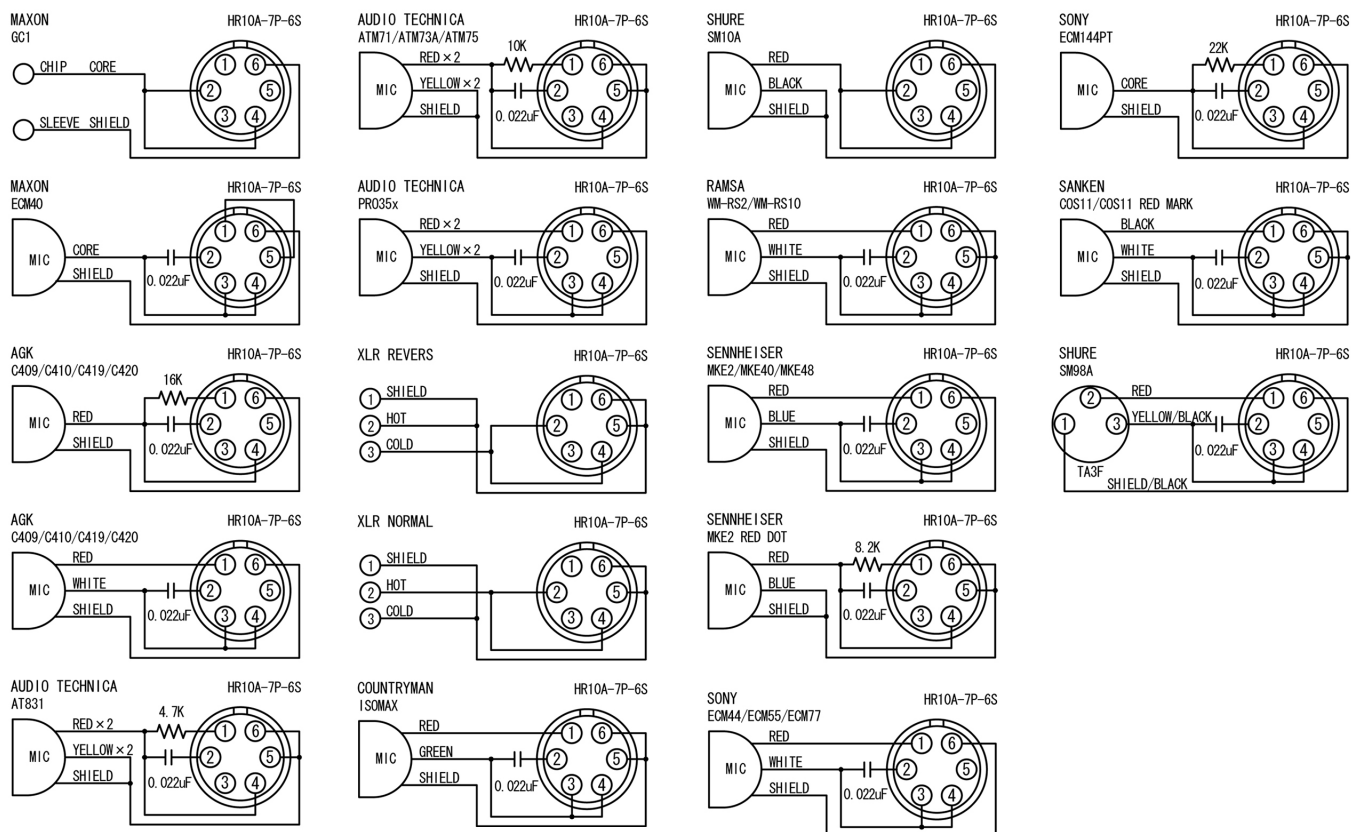
マルチピンコネクターのピン配置
【マイク側コネクタ】
(HIROSE社製 HR10A-7P-6S)



●UT-5J のマルチピンコネクターのピン配置

①ピン	ファンタム DC9V (ECM 用)
②ピン	マイクロホン入力
③ピン	抵抗 8.2K Ω を経て⑤ピンへ (ECM 用負荷抵抗)
④ピン	インストゥルメント入力
⑤ピン	抵抗 8.2K Ω を経て⑥ピン (グラウンド) へ (ECM 用負荷抵抗)
⑥ピン	グラウンド

UT-5J とマイク等との接続図



F. UH-5J のハンドヘルドマイクトランスミッターの入力回路と接続について

- UH-5J は各種のラベリアマイクや楽器に使用することができます。

MAXON 純正モデル

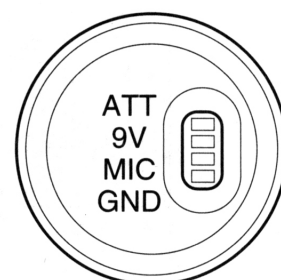
SHURE	SM58	ダイナミックマイク
ELECTRO VOICE	N/D757	高出力 ダイナミックマイク

上記以外のマイクに対する特別注文も承ります。くわしくはお求めの販売店にご相談ください。

- UH-5J のマイクヘッドの配線端子

ATT	4	アッテネータマイク入力
9V	3	ファンタム電源 DC9V (ECM用)
MIC	2	マイクロホン入力
GND	1	グラウンド

UH-5J のマイクヘッドの配線端子



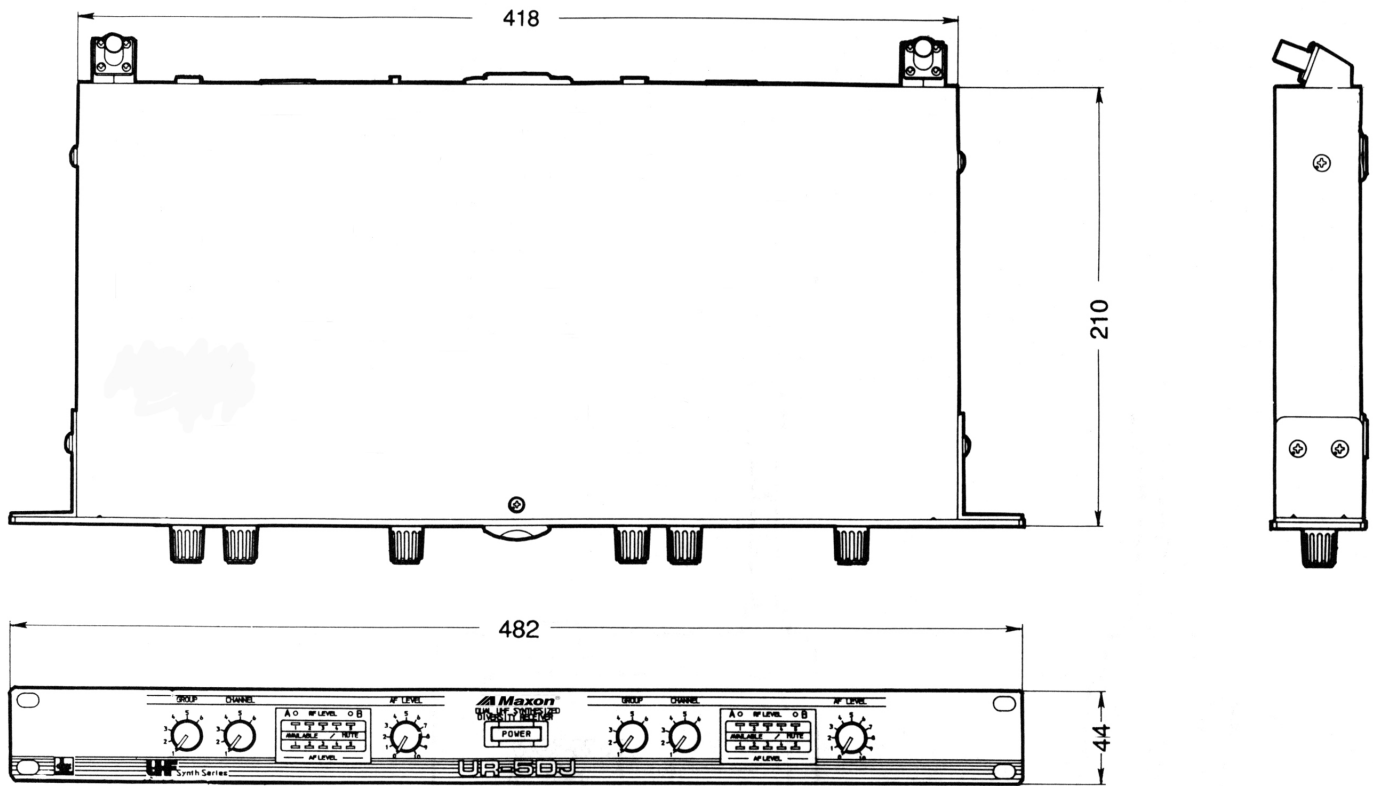
7. トラブルシューティング

症状	原因	処置
音がでない。	トランスミッターのオーディオスイッチがOFFになっている。	オーディオスイッチをONにしてください。
	トランスミッターのバッテリーが消耗している。	新しいバッテリーと交換してください。
	UT-5Jの入力切り替えスイッチが誤ってセットされている。	マイク/インストを正しくセットしてください。
	UT-5Jでインストの場合、楽器用レベル調節が「MIN」になっている。	入力信号に合わせてセットしてください。
	トランスミッターとレシーバーのグループ/チャンネルが違っている。	グループ/チャンネルを正しくセットしてください。
	レシーバーのAFレベルが「0」になっている。	AFレベルをあげてください。
	レシーバーとアンプやミキサーとの接続に問題がある。	ケーブルの接続、アンプやミキサーのセッティングを確認してください。
音が歪む。	トランスミッターのバッテリーが消耗している。	新しいバッテリーと交換してください。
	チャンネルが同一グループ内に設定されていない。	チャンネルを同一グループ内に正しくセットしてください。
	トランスミッターの入力レベルがオーバーしている。	適切なレベルに調節してください。
	マルチパスによる位相歪。	トランスミッターの位置を移動させてください。
雑音がでる。	トランスミッターとレシーバーの距離が遠すぎる。	見通し距離（約50～100m）以内でご使用ください。金属物などを取り除いてください。アンテナとアンテナケーブルの接続を確認してください。
	高周波雑音を発生している機器からの電波障害。	それらの機器からレシーバーを10m以上離してください。
音が途切れる。	デッドポイントが発生している。	見通し距離（約50～100m）以内でご使用ください。金属物などを取り除いてください。アンテナとアンテナケーブルの接続を確認してください。
ビート音がでる。	近くで同じチャンネルが使用されている。	何れかのチャンネルを変更してください。
	トランスミッターとレシーバーの距離が近すぎる。	トランスミッターとレシーバーの距離を3m以上離してください。
混信して2つのマイクの音が同時にでる。	チャンネルが同一グループ内に設定されていない。	チャンネルを同一グループ内に正しくセットしてください。
	トランスミッターとレシーバーの距離が近すぎる	トランスミッターとレシーバーの距離を3m以上離してください。
ハムがでる。	レシーバーのアースがフローティングしている。	レシーバーのフレームグラウンドを接地してください。

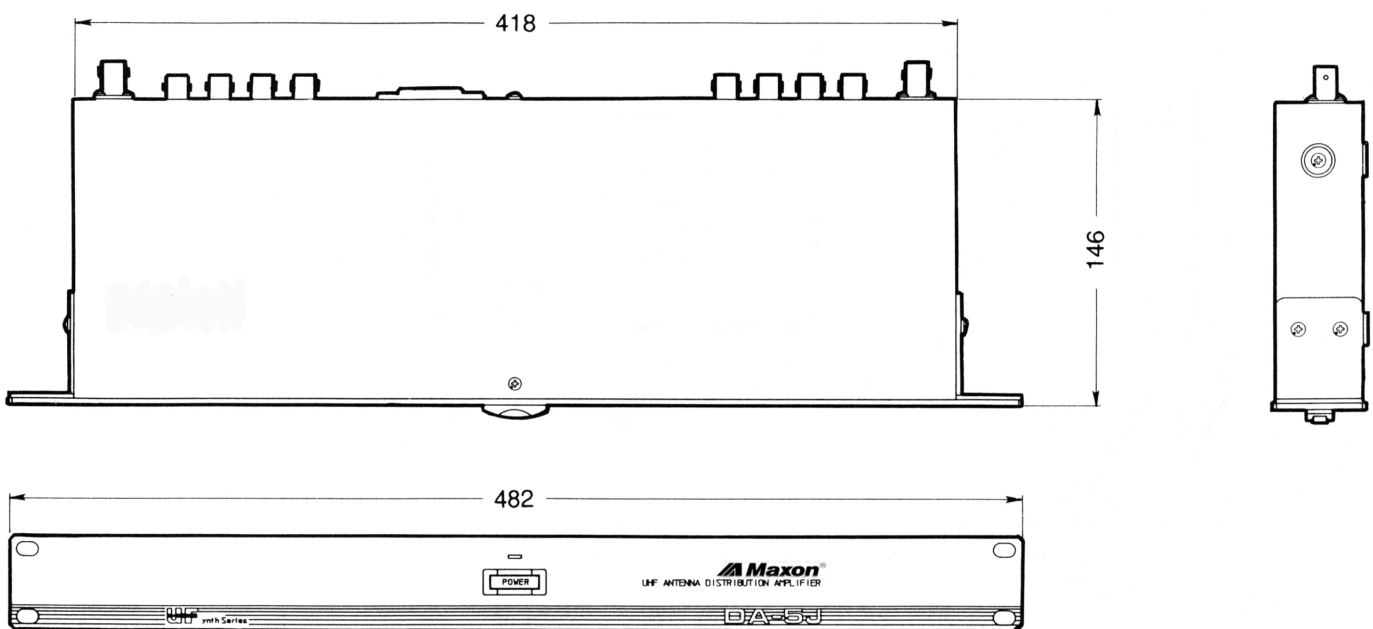
これらの項目に問題がなければ、MAXON アフターサービス機関に適切なアドバイスを受けてください。

8. 寸法図

UR-5J/UR-5DJ レシーバー寸法図

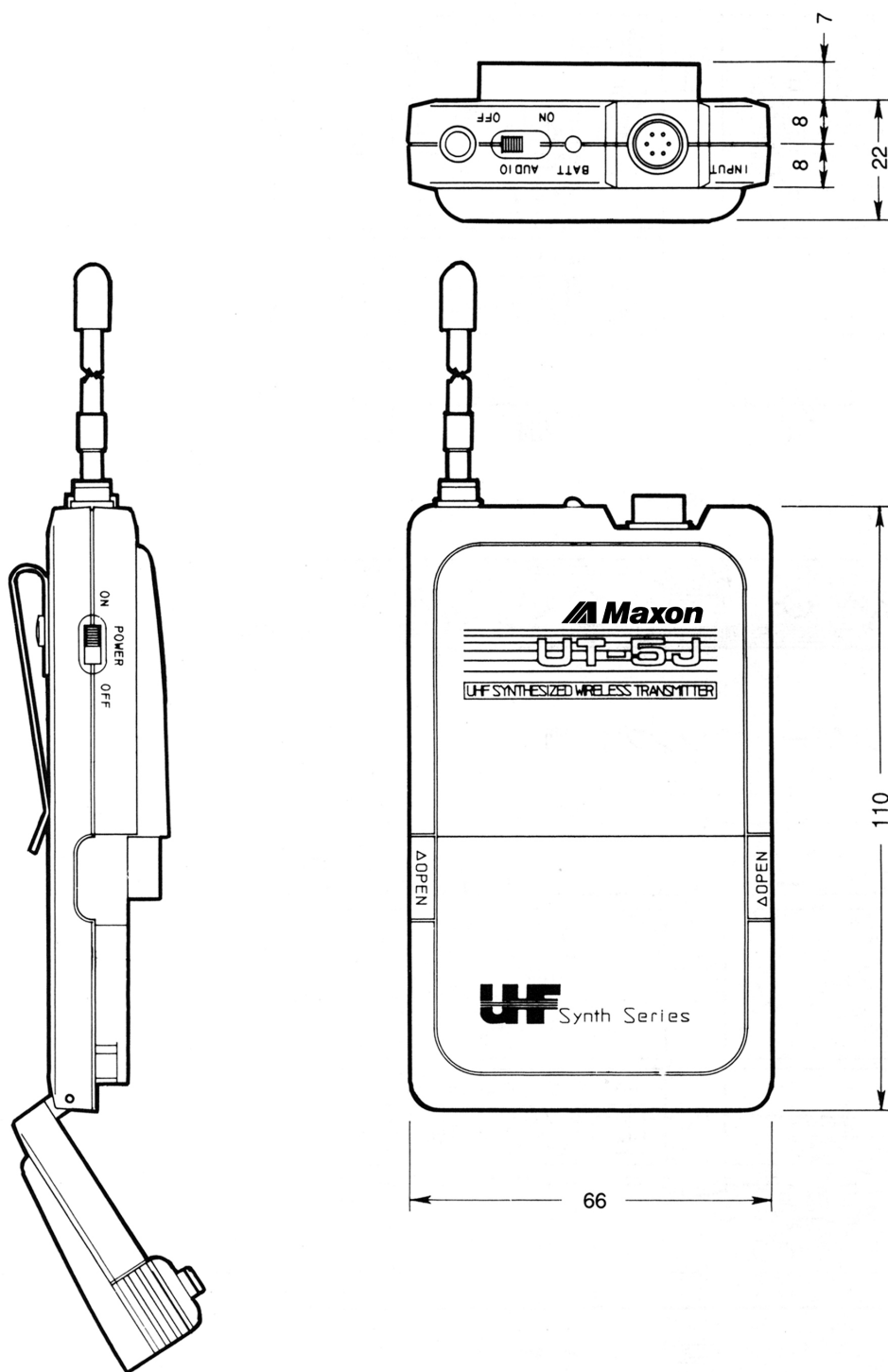


DA-5Jアンテナディストリビューションアンプ寸法図

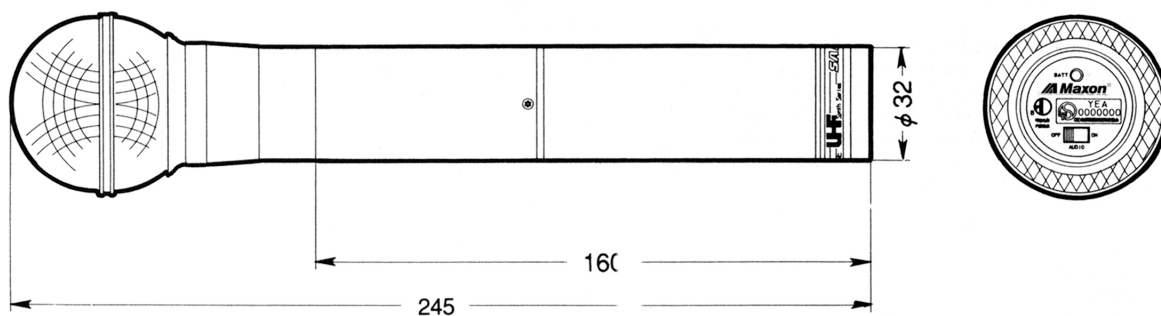


寸法図

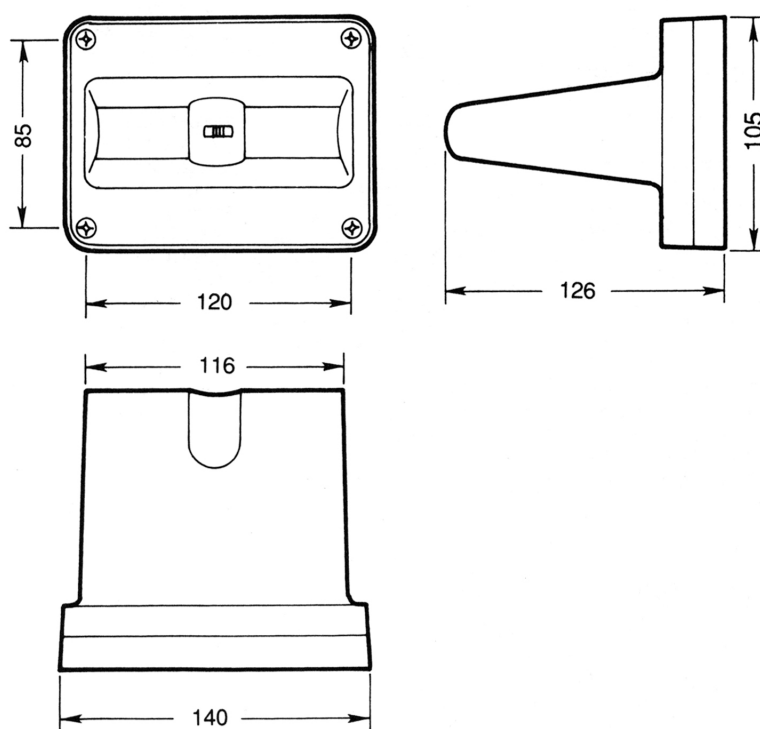
UT-5J ベルトバックトランスミッター寸法図



UH-5J ハンドヘルドマイクトランスミッター (SHURE SM58) 寸法図



AN-81 アクティブパワードアンテナ (かべ取付け用) 寸法図



主な規格

9. 主な規格

●UR-5DJ・UR-5J

受信方式:	ダブルスーパーヘテロダイン方式 / トルダーダイバーシティー方式
受信電波型式:	F3E
受信周波数:	806.125MHz~809.750MHz帯の指定の2波 (UR-5DJ) 806.125MHz~809.750MHz帯の指定の1波 (UR-5J)
受信チャンネル:	RCR B型30チャンネル内の指定の2チャンネル (UR-5DJ) RCR B型30チャンネル内の指定の1チャンネル (UR-5J) (B11-B16, B21-B26, B31-B36, B41-B46, B51-B55, B61)
アンテナ入力:	50Ω BNC-Jコネクタ×2 (A, B) 外部アンテナ用ファンタム 電源出力DC9V 25mA (最大)
アンテナ:	付属の1/2λダイポール (スリーブタイプ) または 別売外部アンテナを接続
第一局部発振方式:	水晶制御PLL周波数シンセサイズド発振方式
第一局部発振周波数:	850MHz帯
第一中間周波数:	49.5MHz (UR-5J, UR-5DJ レシーバー1) 49.525MHz (UR-5DJ レシーバー2)
第二局部発振方式:	水晶制御発振方式
第二局部発振周波数:	60MHz帯
第二中間周波数:	10.7MHz (UR-5J, UR-5DJ レシーバー1) 0.675MHz (UR-5DJ レシーバー2)
受信感度:	15dB μV入力でS/N 60dB以上 (AF 1KHz, ±20KHz FMにて)
受信選択度:	±150KHz -60dB
スケルチ感度:	12dB μV
トーンスケルチ周波数:	38.4KHz
エンファシス:	50 μsec.
ダイナミックレンジ:	103dB以上 (UH-5J/UT-5Jとのオーバーオール IHF-A補正)
残留雑音:	-93dBm以下 (UH-5J/UT-5Jとのオーバーオール IHF-A補正)
歪率:	0.5%以下 (AF 400Hz, ±10KHz FMにて, UH-5J/UT-5Jとの オーバーオール)
周波数特性:	40Hz~15,000Hz ±3dB (AF -40dBにて, UH-5J/UT-5Jとの オーバーオール)
ノイズリダクション方式:	dbx タイプ II R.M.S. (実効値) 検出方式 1:2 対数伸縮
平衡出力:	-10dBm 600Ω XLR-3-32タイプコネクタ
不平衡出力:	-10dB 5KΩ 標準1/4 インチホンジャック (0dB=0.775Vrms)
動作周囲温度:	0°C~50°C
到達距離:	レシーバーアンテナを中心とした半径50mから100mの見通し 距離 (UH-5J/UT-5Jとのオーバーオール)
操作部:	POWER ON/OFFスイッチ AF LEVELボリューム (UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー2×1) GROUPスイッチ 1~6 (UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー2×1) CHANNELスイッチ 1~6 (UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー2×1) OUTPUT MIXINGスイッチ ON/OFF (UR-5DJ)
表示部:	MUTE (LED UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー 2×1) AVAILABLE (LED UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー2×1) A/B (LED UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー 2×1) RF LEVEL (5点LED UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー2×1) AF LEVEL (5点LED UR-5J×1, UR-5DJ レシーバー1×1 レシーバー2×1)
電源:	AC 100V 50/60Hz
消費電力:	17W (UR-5DJ) 10W (UR-5J)
寸法:	482 (幅) ×44 (高さ) ×210 (奥行) mm (コネクタ類, ツマミ類, ゴム足, 電源コード, アンテナ等の突起物 を含まず)
重量:	約2.9Kg (UR-5DJ) (付属アンテナ, 電源コードを含まず) 約2.8Kg (UR-5J) (付属アンテナ, 電源コードを含まず) 約3.1Kg (UR-5DJ) (付属アンテナ, 電源コードを含む) 約2.9Kg (UR-5J) (付属アンテナ, 電源コードを含む)
付属品:	1/2λダイポール (スリーブタイプ) アンテナ (チルト構造) CR-493BNC ×2 電源コード×1本 取扱説明書×1部 製品保証書×1部 ビス M2.6×6 8本 (BNCコネクタ代替用)

●UT-5J

特定無線設備の名称:	特定小電力無線局 (電波法に基づく技術基準適合)
送信周波数:	806.125MHz~809.750MHz帯指定の1波
送信チャンネル:	RCR B型30チャンネル内の指定の1チャンネル (B11-B16, B21-B26, B31-B36, B41-B46, B51-B55, B61)
送信電波型式:	F3E
発振方式:	水晶制御PLL周波数シンセサイズド発振方式
発振周波数:	806.125MHz~809.750MHz帯
変調方式:	リアクタンス変調方式
空中線電力:	10mW
アンテナ型式:	1/4λ単一型
到達距離:	レシーバーアンテナを中心とした半径50mから100mの見通し 距離 (UR-5J/UR-5DJとのオーバーオール) SENNHEISER社製MKE-2, SANKEN社製COS-11 AKG社製C409, AKG社製C410 インスツルメント接続用標準1/4インチホンプラグ付きケ ーブルの何れかが指定の1本を使用 HIROSE社製6ピン (マイクロホン/ケーブル側コネクタはHIROSE HR10A-7P-6S)
使用マイクロホン /接続ケーブル:	① ピン-ファンタムDC9V (ECM用) ② ピン-マイクロホン入力 ③ ピン-抵抗8.2KΩを経て⑤ピンへ (ECM用負荷抵抗) ④ ピン-インスツルメント入力 ⑤ ピン-抵抗8.2KΩを経て⑥ピン (グラウンド) へ (ECM用 負荷抵抗) ⑥ ピン-グラウンド
入力コネクタ:	55mA以下 (DC9V) 電池寿命: 連続動作4時間以上 (常温にて指定電池を使用) 電源表示: 電源電圧約5.6Vで点灯 使用電池: 東芝製 9Vアルカリ乾電池 ×1 最大入力: -5dB (マイクロホン入力) +15dB (インスツルメント入力) (0dB=0.775Vrms)
ピンコネクション:	動作周囲温度: 0°C~50°C 操作部: POWER ON/OFFスイッチ×1 AUDIO ON/OFFスイッチ×1 GROUPスイッチ 1~6×1 (電池収納部) CHANNELスイッチ 1~6×1 (電池収納部) MIC LEVELボリューム×1 (電池収納部, AMP. GAIN可変範囲 0dB~+26dB) INST LEVELボリューム×1 (電池収納部, ATT.可変範囲∞ ~0dB) INST/MIC INPUTスイッチ×1 (電池収納部)
消費電流:	表示部: BATTERY LOW LED UNAVAILABLE LED (電池収納部)
電池寿命:	重量: 約110g (電池, マイクロホン類/ケーブル類を含まず)
電源表示:	寸法: 66 (幅) ×110 (高さ) ×22 (奥行) mm (コネクタ類/マイクロホン類, アンテナ, クリップ等の突起物を 含まず)
使用電池:	付属品: SENNHEISER社製 MKE-2 ラベリアタイプマイクロホン (マイク黒色, コード長1.3m) (MKE-2にはMZW2MB金属風防, MZQ2A タイプピンホルダークリップが付属) SANKEN社製 COS-11 ラベリアタイプマイクロホン (マイク黒色, コード長1.3m) (COS-11にはWS-11金属風防, HC-11タイプピンホルダークリップ, RM-11仕込み用ゴムホルダーが付属) AKG社製 C409 音楽器用マイクロホン (C409にはW44ウインドスクリーンが付属) (マイク黒色, コード長1.5m) AKG社製 C410 ヘッドセットタイプマイクロホン (C410にはW410ウインドスクリーンが付属) (マイク黒色, コード長1.5m) GC-1 インスツルメント接続用標準1/4インチホンプラグ付き ケーブル ※マイクロホンまたはケーブルは上記の何れかが指定の1本が付属 東芝製 9Vアルカリ乾電池 ×1 専用プラスチックドライバー×1本 専用キャリングケース×1個 取扱説明書×1部 製品保証書×1部
最大入力:	
動作周囲温度:	
操作部:	
表示部:	
重量:	
寸法:	
付属品:	

●UH-5J

特定無線設備の名称： 特定小電力無線局(電波法に基づく技術基準適合)
 送信周波数： 806.125MHz～809.750MHz帯指定の1波
 送信チャンネル： RCR B型30チャンネル内の指定の1チャンネル (B11-B16, B21-B26, B31-B36, B41-B46, B51-B55, B61)
 送信電波型式： F3E
 発振方式： 水晶制御PLL周波数シンセサイズ発振方式
 発振周波数： 806.125MHz～809.750MHz帯
 変調方式： リアクトランス変調方式
 空中線電力： 10mW
 アンテナ型式： 内蔵1/4λ単一型
 到達距離： レシーバーアンテナを中心とした半径50mから100mの見通し距離 (UR-5J/UR-5DJとのオーバーオール)
 使用マイクロホン： SHURE社製SM58, ELECTRO VOICE社製N/D757の何れか指定の1本を取付
 消費電流： 55mA以下 (DC9V)
 電池寿命： 連続動作4時間以上 (常温にて指定電池を使用)
 電源表示： 電源電圧約5.6Vで点灯
 使用電池： 東芝 9Vアルカリ乾電池 × 1
 最大入力： -5dB (0dB=0.775Vrms)
 動作周囲温度： 0°C～50°C
 操作部： POWER ON/OFFスイッチ × 1 (電池収納部)
 AUDIO ON/OFFスイッチ × 1
 GROUPスイッチ 1～6 × 1 (電池収納部)
 CHANNELスイッチ 1～6 × 1 (電池収納部)
 MIC LEVELボリューム × 1 (電池収納部, GAIN可変範囲 0dB～+29dB)
 BATTERY LOW LED
 UNAVAILABLE LED (電池収納部)
 表示部：
 重量： 約140g (電池, マイクロホン, ウィンドスクリーン, アダプタリングを含まず)
 約390g (電池, SM58マイクロホン, アダプタリングを含む)
 360g (電池, N/D757マイクロホン, アダプタリングを含む)
 寸法： φ32 (直径) × 160 (長さ) mm (マイクロホン, ウィンドスクリーン, アダプタリングを含まず)
 φ52 (最大径) × 245 (長さ) mm (SM58マイクロホン, アダプタリングを含む)
 φ52 (最大径) × 241 (長さ) mm (N/D757マイクロホン, アダプタリングを含む)
 付属品： SHURE社製 SM58 マイクロホン
 ELECTRO VOICE社製 N/D757 マイクロホン
 ※マイクロホンは上記の何れか指定の1本を取付
 東芝製 9Vアルカリ乾電池 × 1
 専用マイクホルダー MH-10 × 1個
 専用プラスチックドライバー × 1本
 専用キャリングケース × 1個
 取扱説明書 × 1部
 製品保証書 × 1部

●DA-5J

通過周波数帯域： 806MHz～810MHz帯
 混合分配数： ディストリビュータA アンテナA入力 × 1, アンテナA出力 × 4
 ディストリビュータB アンテナB入力 × 1, アンテナB出力 × 4
 通過損失： 0 dB ± 2dB以内
 雑音指数： 10dB以下
 アンテナ入力： 50Ω BNC-Jコネクタ × 2 (A, B)
 外部アンテナ用ファンタム電源出力DC9V 25mA (最大)
 アンテナ出力： 50Ω BNC-Jコネクタ × 8 (A×4, B×4)
 最大入力： 110dBμV
 動作周囲温度： 0°C～50°C
 電源： AC 100V 50/60Hz
 消費電力： 3W
 寸法： 482 (幅) × 44 (高さ) × 146 (奥行) mm (コネクタ類, ツマミ類, ゴム足電源コード等の突起物を含まず)
 重量： 20Kg
 付属品： 電源コード × 1本
 取扱説明書 × 1部
 製品保証書 × 1部

●AN-81

受信周波数帯域： 806MHz～810MHz帯
 アンテナ型式： 1/2λダイポール
 相対利得： +8dB (ブースタンプを含むダイポール比)
 操作部： アッテネータスイッチ 0dB/−10dB/−20dB
 表示部： ファンタム電源LED × 1
 V. S. W. R： 2.6以下
 アンテナ出力： 50Ω ネジ締付端子型
 動作周囲温度： 0°C～50°C
 電源： DC7～12V 20mA以下 (DC8Vにて)
 UR-5DJ, UR-5J, DA-5Jの本体アンテナコネクタから供給
 寸法： 105 (幅) × 140 (高さ) × 126 (奥行) mm
 重量： 300g
 取付穴ピッチ： 83.5mm
 付属品： シールド用ゴム × 1個
 木壁用セルフタップネジ (呼び4×25) × 2本
 電工ボックス用小ネジ (M3.5×20) × 2本

●800MHz帯B型周波数一覧表

周波数 (MHz)	チャンネル					
	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4	グループ5	グループ6
806.125	B11					
806.250		B21				
806.375	B12					
806.500		B22				
806.625			B31			
806.750				B41		
806.875			B32			
807.000		B23				
807.125	B13					
807.250						B61
807.375			B33			
807.500				B42		
807.625					B51	
807.750	B14					
807.875		B24				
808.000				B43		
808.125					B52	
808.250			B34			
808.375					B53	
808.500		B25				
808.625			B35			
808.750					B54	
808.875		B26				
809.000	B15					
809.125				B44		
809.250			B36			
809.375				B45		
809.500	B16					
809.625					B55	
809.750				B46		
計	6	6	6	6	5	1

10. プロダクトラインナップ

- アンテナケーブル AW-06 アンテナ分配ケーブル
 AW-10 アンテナケーブル 10m
 AW-30 アンテナケーブル 30m
- その他 MH-10 ハンドヘルドマイク用ホルダー
 SX-1U 専用 FRP 製ラックケース



株式会社 日伸音波製作所

〒390-0851 長野県松本市島内 4172-1 Tel 0263-40-1400 (代表)/0263-40-1403 (直通) Fax 0263-40-1410
Url:<http://www.maxon.co.jp> E-mail:sales@maxon.co.jp

*製品の規格は改良のため予告なく変更することがあります。

UHF SYNTH SERIES Owner's manual © 1993年5月 株式会社 日伸音波製作所 UMN-UHF5-0101B Printed in Japan.